大正八年一月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百四十五號

婦人衛生雜誌

第三百四十五號目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

雜報

會報

婦人衛生雜誌（自三三八號至三四四號）目次

婦人衛生雜誌（自第三三八號至第三四四號）目次

講演

叢談

育兒

家庭衛生

抄録

雜報

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや知識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんことを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を怠らざるもの〻如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一囘集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敘べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐこととしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

(明治三十二年十二月改正)

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に設き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族稱住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す。入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金貳拾五圓以上特別會員は一ヶ月金參拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の知人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして適意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會會場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得(但衣服は總て質素たるべき事)●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第二十一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第二十二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第二十三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事の檢印を要するものとす●第二十四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●二十五條　地方に於て本會會員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第二十六條　本會會員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第二十七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第二十八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第二十九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件●第三十條　本會は隔月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第三十一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは品物の類等を本會に寄贈する者ある時は本會會長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第三十二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし(郵券送一割增)●第三十三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所所在の郵便局(本鄕區駒込千駄木町郵便取扱所宛)振出しあるべし●第三十四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本鄕區駒込千駄木町五十番地　私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり●第二條　當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙同金五錢●第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす●第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を選任す各役員の任期は一ヶ年とし再選するを得役員は總て無給とす●第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし●第八條　每年一月總會を開き支會の要務を擧行す●第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條　一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす●第十二條

支會會員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を着用すべし●第十三條　特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しけ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會 高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衛生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の知識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するを目的とす●第二條　當支會は大日本婦人衛生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く●第三條　當支會は高崎地方在住の本會會員と支會限りの支會員とを以て組織す●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三ヶ月分以上の會費を添へ申込まるべし●第五條　當支會に學術其の他の稗益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志贊助員となす●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名●第八條　役員は會員中より公選し會長副會長は役員中より互選す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再選するを得●第九條　本會の特別贊成員を定員外の評議員とす●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改選會務の報告等をなす●第十一條　會員及贊成員の家族竝に篤志贊成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし●第十二條　本會會員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一ヶ月分金五錢を出す者とす●第十三條　總て會費の徵收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月以上前納すべし●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし●第十八條　特に此規則に揭げざる者は本會の規則を準用す

事務所高崎市堰代町一星野濤子方

高崎支會



義肢の進歩

醫學博士　田代義徳

莊司君からして義手若くは義足の進歩に就てお話するやうにと云ふことでありましたから、一寸大體の事をお話する考であります。御承知の通り、世界大戰爭で交戰國壯丁の全部は戰線に於て働かなければならぬと云ふ樣な有樣で、勢ひ非常に澤山な負傷者が出來ます。そして其怪我人が日清戰爭や日露戰爭の時は小銃の負傷が多くありました。――是は御婦人にはあまり無關係の事のやうですが、併し戰の狀況に就て多少御承知になつて居ると云ふ事も有益なことで――日露戰爭の時なぞは重もに小銃戰でしたが、今度の戰は小銃戰は少い。御承知の通り主ばら大砲を撃ちながら戰をして居るので、所謂步兵の突撃などゝ云ふやうなことはあまり行らない。だから今度獨逸軍が肉彈となりて進撃すると云ふやうな新聞通信はありますが、先づ砲兵戰で凡ての準備をして、それから步兵が進む譯であります。斯う云ふ風であるから突撃戰なぞは比較的少い、從つて大砲の負傷が多いので、此大砲の怪我は小銃と異つて怪我が大きい。又砲丸の小破片は小銃と異つて突拔けると云ふやうなことが大抵ない、いろ／＼な所に碎折けて入つて居るから、其結果傷が遙に小銃より大きい。であるから醫者の方では、今度の戰で負傷した人の大部分は手又は脚が失くなつて仕舞ふであらうとまで言ふて居る位である。それに又瓦斯壞疽と云ふやうな恐るべき病も起るので、それに就ても大

に注意をして、其原因などに就て聯合軍の醫者も又敵軍の醫者も頻に研究して居る。さう云ふ風で、兎に角日露戰役などゝは一寸異つた事が多い。殊に瓦斯壞疽とか云ふやうなものになると、忽ち二十四時間內に命まで失はれて仕舞ふと云ふ事になる、其結果棄てゝ置かれぬから、手を切り足を斷ると云ふことが非常に多く、又幾分か早く切ることが多い譯である。何となれば非常な多數の怪我人であるから、それを一々叮嚀に綿密に手當を施すと云ふことも亦事實が許るさない、なか／＼混雜の際には出來ないから、幾らか醫者が早く切斷を爲る、萬一切斷の時機を失しては命に障はると云ふことになるから脚よりも命が大切だと云ふことになつて、早く切斷することになつて居る。そんな風な關係からして、現在の戰傷の結果は片手の無い人や、脚の無い人が比較的多い。是が平時であると、樣子を視て愈々仕方なければ切斷をするのであるが、混雜の際にそんな悠然した考をして居る暇がないから早く切斷術を行ると云ふ風である。私はリオン、パリ等にて負傷兵などの容子を見たのですが、往來を歩くと手の無い人、脚の無い人が非常に多い。私はリオン市の或る病院で三時間程此怪我人を見ましたが、手又は足の無い人で、最早義肢を用ひても宜いやうな人が三四百人も居りました。先づ兩手の無い人、兩足の無い人は比較的少いが、兎に角リオンあたりの病院だけでも其位あつたのですから、其他の都會を合せたり、倫敦とか云ふやうな大都會をも入れたら夥しき多數の人であらうと思ふ。

手の無い、脚の無いと云ふやうな人は、大體に於て廢人であるが、不具者になつた儘で今日を過すと云ふことは、聯合國でも敵國の方でも困まるので、不具の人を働かせやうと研究する人が少くないのであります。勿論何れの國でも婦人が男子に代り仕事をして居ると云ふ風で、人手の足りぬと云ふことも非常なものである。であるから手の無い、足の無い人でも、遊ばして置くと云ふ譯には行かない、勢ひ

どうしても働かせなければならぬ。平時であつたらさう云ふ必要もないが——例へば普佛戰爭の際にも、手の無い脚の無いと云ふやうな人はあつたが、併しこれ等の人まで働かせなければならぬと云ふやうには困まつて居らなかつたが——今度は困まつたのであつて、何の國でも片腕でもある以上は達者の人を遊ばして置く譯には行かぬからして、何等か働かせなければいかぬと云ふ風で、働かせるには何うしても練習をさせなければならぬ。そこで片腕で仕事を爲る片腕學校が出來て、其處には片腕の人達が集まり、又片脚の無い人の學校を建てる。其處はまあ學校と云つても、實は練習所である。勿論手の無い人よりも足の無い人の方が存外働けるのであつて、今日も私の所に脚の無い人が來ましたが、其人は右の足は膝から下は半分でありますが普通に歩ける。脚が無いのに杖もつかすに少しもビッコも引かずに歩けます。で其人に何が一番不自由だと聞きましたら、疊の上でちやんとお坐りをすることが出來ないから、それが一番不自由であると言つた。自分では脚が缺けて居つてもそんなに不自由は感じない、自轉車にも乘れるし、又山にも登れる、梯子段にもさう差支はないが、唯梯子段は上り下りの時分に、殊に下りる時に危ぶないので、それだけが少しいけないが、其外には何等不自由を感じないと言つて居つた位である。大體に於て脚の無い方の人は大變都合が好い、現に脚の無い人で富士の山に登つた人がある。いづれ金剛杖でもついて登つたのでせうが、片足の無いと云ふことに就ては左程不自由を感じない。それから見ると手の無い人は非常に不自由で、手の無い學生を先日一人診ましたが、此人は小供の時に——四つか五つの時分に手が無くなつたと云ふことです——で何が不自由かと申しましたら、何にも不自由はない、他人に何事も賴まないで自分の身邊のことは一際自分で始末して居る。何う云ふ風にやつて居るかと思ひますと、即ち著物を著ることも容易い、帶を占めるのも何でもない、それは顎で

兵子帶の一端を押へて他の一端を片腕で腰部に廻はす、顎を一方の手の代りに使ふ。斯う云ふ風だからして、電車に乘つて切符を出す時にも、自分は餘り不自由を感じない、四歳か五歳の時分からさうして來て居るから、腕の有ると云ふ便利を知らない。何にしろ片方の手ばかりでやつて來て居るからでもありませうが、此人は餘程面白い人だと思ひました。

私は其人を賴んで一度活動寫眞を撮つて見たいと思つて居ります。斯う云ふ不具の人でも、自分一人で身の廻りの事をさう云ふ風にすつかりやると云ふことを活動寫眞に撮つて置いたなら、例へば怪我人とか、病の爲めに愈〻腕を截らなければならぬと云ふことを醫者が勸める時に、手が無い位なら死んだ方が良いなどゝ言つて、神經を病むやうな人があつて、それが爲めに遂ひ手術が手後れになつて、やうやく病人が切りたいと云ふ時には既に間に合はぬと云ふやうな事がある。さう云ふ時の決斷を付けさせるのに、斯う云ふ物を見せて手が無くても斯くの通り便利に働けると云ふことを解らせたら、醫者に不自由するやうな田舍で、鐵道院などの人が怪我した場合に、何うしてもそれは早く切斷しなければならぬと云ふやうなことがあつても、大變だと言つて時機を失して生命までも失ふと云ふ、さう云ふ風な時に、醫者の勸めも直ちに聞入れると云ふことが出來るだらうと思ふ。さう云ふ風に片腕でも自分の身の廻りの事も出來ると云ふことを見せたら、恐らく切斷をすることも早く決心をするやうになるだらうと思ふて居ります。兎に角手の無いのは非常な不自由なものであるから、其腕が義肢でもあると工合が宜い、でどんな人でも外見を張るのですから、人から見られた時に自分の體に缺損のあると云ふことをどうか匿して置きたい、それには第一に義肢の必要がある。第二には、どうしても兩方の手の在つた方が都合が好い譯で、例へば左の手が切斷されるとしたら、片方の手で以つて仕事をしなければならぬ、そこで他處行(完全なる義肢)の手でもあれば、不自由

ながらも體裁が良い、尙は同時に仕事の出來る手が出來れば大變都合が好い、現在の手は他處行の手で、外見上唯手が在ると云ふだけに止まるので、西洋でも他處行の手、又は裝飾の手又は贅澤の手と斯う言つて居つて唯恰好良く人に見せ得ると云ふだけであるから、勞働者に取つては仕事を爲る手で、形はどうでも宜いから兎に角一寸物を摘まむ位の事が出來るやうな、さう云ふ風な多少の作用をする手があれば非常に都合が好いのであります。

今度の戰爭に於て、各國共に義肢の内でも足の方は比較的容易いので左程注目を引かないが、手の方に於ては大に必要を感じて居るので、どうか實用の手と他處行の手とを兼ねるやうな物が欲しいと言つて居る。現在の處では、佛蘭西でも獨逸でも、どうも實用と他處行とを兼ねた手が出來て居らない、で之を作らうとするには、醫者と工學者とが協同してやつて、何う云ふ風にしたら一番良い、實用と裝飾とを兼ねた手が出來るかと云ふことを頻に研究して居る。

そこで此畫を(第一圖)最初御目に懸けると、一番現代の良い手は亞米利加のカアンスの義手で、彼處に掲げてありますのがさうでございますが、寫眞で見る方が印象を與へるのに深かいと思ひまして寫眞を出したのであります、即ち彼の畫は鞄を提げるところで、又物を持つて人に渡すことも出來る、或る人から受取ることも出來る、此畫が(第二

第一圖

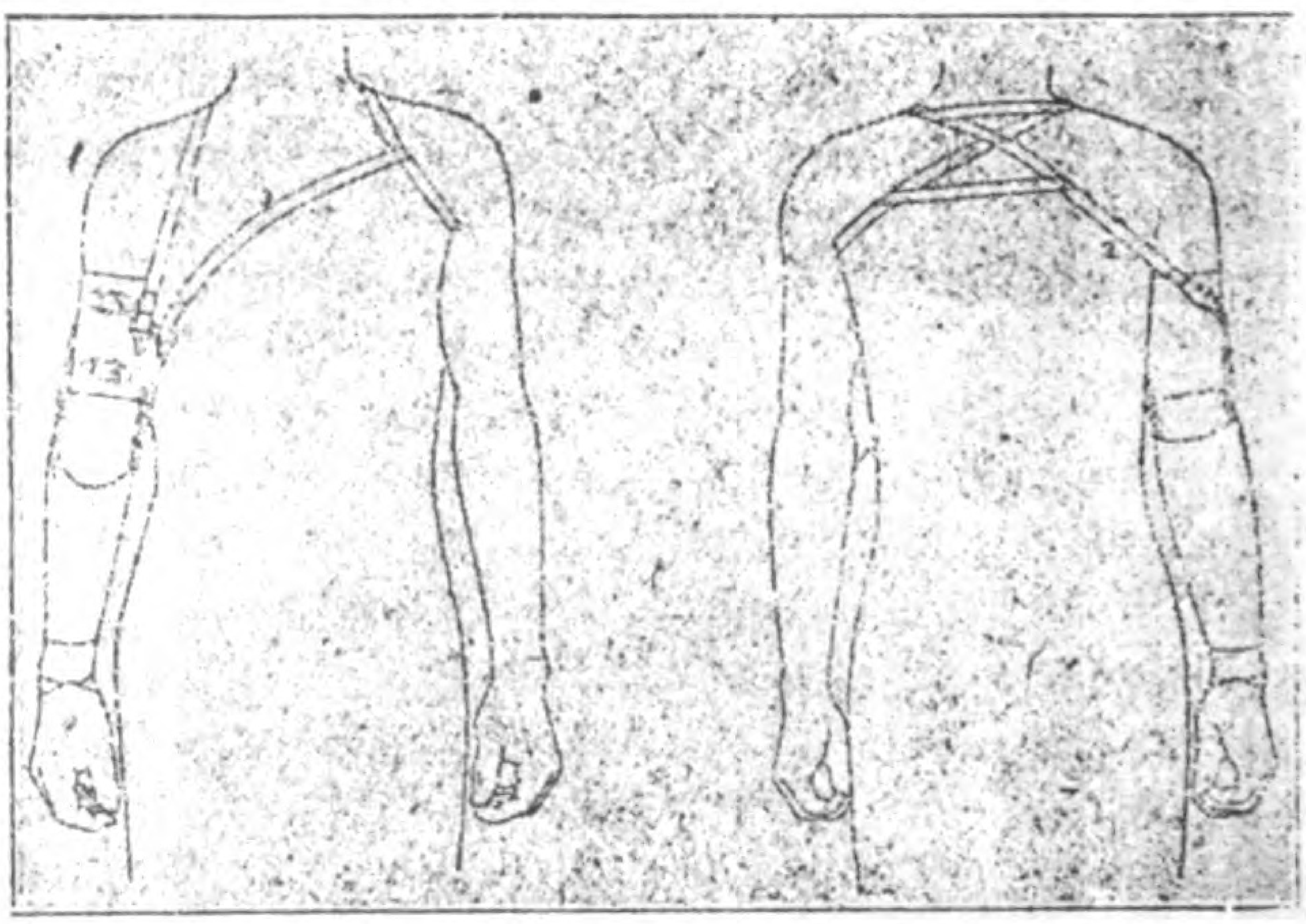


圖)今や將に受け取らうと云ふところで、愈々受取つて先づ斯う云ふ風に持つたところである。斯う云ふ風に肩を動かして行くと(姿勢を示し)手が下がる(第三圖)今度斯う上げると自然と上がる。斯う云ふ譯



第二圖　腕を上ぐるに從ひ指自ら開くを示す

で、此人が(寫眞を指し)手を下げると段々指が開く、(第四圖)、さう云ふ風な具合に出來て、例へば食事なども出來る。是が獨逸人のカアンスの義肢に敬服して居るところである。併しカアンスの義手は如何

にも價が高いので、今日では一層高くなつて居るだらうと思ふ。其當時でさへ五百何圓など云ふ金でありましたから、今では千圓もするだらうと思ふのでどうも兵隊の總ての手の無い者に千圓宛もする手は



第三圖　腕を下ぐるに從ひ指自ら閉ざすを示す

付けられない、不廉過ぎる、且つ又斯う云ふ風な手になると修繕が大變で、何うにかして五百圓も千圓もするのを買つたところで、損はれた時分に修繕をしなければならぬ、其修繕をする職工が無い、折角

亞米利加から輸入してカアンスの義肢を使つたところで、僅か一年か二年で工合が惡くなつた場合には困る次第である。況んや普通の兵隊に千圓もする手を呉れると云ふことは行はれない。それでどうも各



第四圖　一旦把握したる器具を他人に渡さんとゝろを示す

國共に裝飾の手と云ふよりは、今日のところで望むのは仕事をする手で滿足しなくてはいけない、と云ふ譯で、――是は私が日本の技師に拵へさしたものでありますが、――例へば此手で、此方から引張ると斯う云ふやうに上がる、途中までは斯う云ふやうなことが出來るが、此處で難しいことは拇指が動かない、僅に二本しか力の綱が付かない、でカアンスのは三本まで使へる。自由に拇指を示指に對して曲げれば握ると同時に又自ら開かなければいかぬ。此手は(第七圖)御覽の通り動かぬ、是ぢやいけない。第



第五圖　鞄を提げたるを示す

一拇指も斯うやつたら斯う縮まらなければいけない。器械を作る技術家は、例へば斯う云ふ風に(指を示し)銅貨でも指で攫む＝摑む時分に出來た圓味、即ち拇指頭と示指頭との間に圓形が出來れば精巧な手となるのですが、獨逸國中央試驗所で技師を傭つ

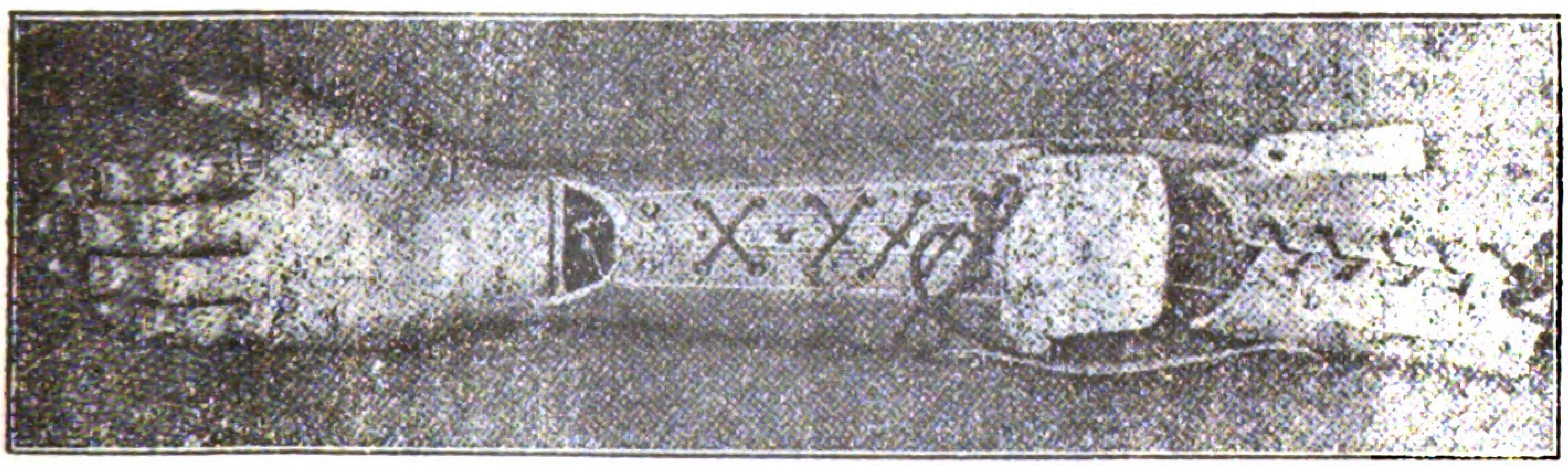
て天然の手に近いところの義肢を拵へやうとして、專ら研究して居るが、まだ今日では出來ない。今のところでは亞米利加のカアンスの手が先づ一番良い



第六圖　食事をなさんとするを示す

のである。私が十年か七八年前に器械職工が怪我をしたので、それに是非義手を作つて遣りたいと思つて器械を註文して作らせたのですが、(第七圖)、此處まで行つたが拇指が動かないで、どうか之を改良

第七圖　飯沼の作りたる義手。伸絲を引くときは指は伸び屈絲を引くときは指は屈するなり



して拇指が動くやうにしたら宜しいと思ひます。日本のは斯う(指を曲げて)出來ない、自然の手は、伸ばす時分には斯う開くし、曲げる時には斯う屈むが、器械の義手ではそれが出來ない。日本でも日清戰役の時分に、何等かの便利な器械を考出さうと云ふので、殊に乃木將軍が赤十字病院に行つて、兩方の手の無い兵隊を見て、其兵隊にどうか間に合ふやうな義手を拵へて遣りたいと云ふて、砲兵本廠

の技師と相談して拵へたのが、皆さんも御承知の乃木式の義肢と云ふ(第八圖)、是は先づ簡單な働は出來る、大したことは出來ないですが、例へば斯んな物は斯う持つて來られる。食物=「パン」だの或は煙

第八圖



草などは摘まめる、是が其乃木將軍の作つた義肢でありまして、鉗子の作用で自由に動かすことが出來る、併し是は御覽の通り實用の手と云ふことは言へない。是の乃木式義手の出來る前に日本にありましたものでは陸軍の軍醫學校にあつた物で、手の切斷端に引懸けるので、是は日淸戰役の時分の乃木さんの發明される前に出來て居つたのですから不便な物であつて、かの乃木式になると、食物が途中までも斯うして行けるから、此處の具合が非常に良く行く

第九圖



是がもつと確乎り出來て居つて、重い物でも持てるやうになれば實用になるのである、併し是でも實用には多少なつて居ります。まあ我國にありますのは單に斯う云ふ風な他處行の手で、斯う云ふ風な工合にして力が入るのでなければ實際に使へない。器械

屋に私が註文して工夫した物ですが、(義肢を示す)、是は切斷端の筋肉の處へ插して引張らせたのであります、で先づ我國に於ては未だ義肢は極めて簡單な物であつて、是等に比べると、亞米利加のカアンスなどの義肢になると非常に進步したものである。唯之に就て或獨逸の醫者が、カアンスの義肢に慣れて上手に使へるまでには非常に練習を要すると言つて居る。カアンスの義手で仕事をするまでには、非常な熟練をするのでなければいけない、唯自然に出來ると思ふと大變に間違ふ。それを使ふのに其人の器用不器用と、それから熱心とに依らなければいかぬので、職人が他處に働いて居るにしても、意志が鞏固であつて、熱心と練習と、それからして其者の器用不器用と云ふことがあるので、是なども(義肢を持ち)肩を動かす時に慣れない人がやると、全然で踊りでも踊つて居るやうな具合に甚だ見惡い。亞米利加のカアンスの義肢を賣る所には、此義肢でいろいろな仕事を爲すことが出來る人を示すとのことである。特に此義肢使用の專門家とでも見るべき者を使つて居る(廣告の爲め)。其人を見て、彼の人は彼んなにやるからと思つて買つて來ても、練習しなければ使へないと云ふことである。

現在の義肢は裝飾の手で、仕事を爲るには不便である、恐らく今年でも來年でも戰爭が終局した曉には必ず實用と裝飾とを兼ねた義肢が出來るだらうと思ふ。外國では懸賞で新聞にも揭げてありますから必ず出來ます。是が日本とは違つて、戰爭は濟んでも負傷者は生活上樂ではありませぬ、最早自分は癈人だから、從つて働く必要が無いと云ふやうな考を持つことが出來ない。日本には日淸戰爭の後に癈兵院が出來ました、でさう云ふ人には多少精神を慰める爲めに仕事をさして居るのですが、其人達が其仕事に對して熱心にしなくちやならぬと云ふやうな眞劍な考は持たない。それは日本では年に參拾圓位の恩給を貰らふので、自分の家族團欒の間に世話になる方が面白い。三飯の食扶持を有つて居さへすれば

家族間で左程邪魔者にされない。ところが西洋ではさうはいかない、食料にも足らぬやうな恩給であつては、普通獨身者でさへ家賃も拂へない。そんなやうな譯で、日本では癈兵も少ないから、家族主義でも良いけれども、日本の生活も段々困難になつて來ると、三飯だけの食扶持では足らぬことになる。東京を離れた田舍でもあれば、比較的生活も容易いかも知れぬが——西洋では癈人であつても、兎に角體が動かせれば働かうと云ふ風で、手の無い人や、足の無い人があつた時分には、之に仕事を授ける。併し東西人情に變りはないので、癈兵に職業を授けると云ふのは困難であると云ふ點から、例へば職業を授けて貰らふにも、骨の折れないやうな玄關番とか云ふやうな職業で、自分が安心して働けるやうな仕事を望んで居る。日本でも西洋人と同じ樣に癈兵が職業の選り好みを爲ると云ふ風があつて、それは何れの國でも、癈兵に職業を授けると云ふ點に就ては苦心して居るので、生れながら勞働に從事して居つた者を、癈兵になつたからと云ふて直に速記者にしやうと思つても、是は知識を要するものであるから間に合はない。で知識を要するところの職業は、家庭で頭を使はなかつたところの人は覺えるにも疲勞を起して神經衰弱に罹つて仕舞ふ。それだから寧ろさう云ふ風な者は百姓なら百姓の方が良い。併しながら人間はどうも樂な職業を希望して非常に困まると云ふことである、且つ又田舍から出た兵隊が癈兵學校に入ると、田舍に歸るのを厭やがり、都會生活を好むと云ふ風があつて、田舍の畠が自然荒廢に歸すると云ふやうなことが出來るので、癈兵を田舍に歸へさうと云ふことに熱中して居る。是には腕の無き人ならば仕事を爲る實用の手で完全な物が出來なくてはいかぬので、乃木式の義手は唯遊んで居る人でもあれば宜しいが、百姓を爲ると云ふ手には行きませぬ(義肢を示す)。是は佛蘭西から買つて來た手でこれは(略)實用の手で、上肢の切斷した所に繋ぎ付ける、例へば斯う云ふ風な手が、是は非常な頑丈な

ものでありますから、是で仕事をされる、斯う云ふ具合に何でも挾める。斯う云ふ風な、此處で此開いて居るのが。唯私の(義肢)と違ふところで、切斷端をちやんと向いて是が付いて居る。斯う云ふ風に載せて居る物を抑へる時分に是が曲がるから多少の仕事は出來る、是は非常に頑丈な物でありますが、此器械はルミールの拵へた仕事の手であります。何の手へでも此處に嵌込むのであります、さうして何でも重い物を持たれる、例へば鑢臺で剃刀も磨げると云ふ風で、此方は少し拔出した手でありますが、兎に角鉗子の非常な嚴重な物を使つてあるから、どんな仕事でも是であると力を加へることが出來るのでありますが、是は仕事をする手に作つた物では非常に力が有るのである。

もう一つ是は仕事を爲ると云ふ譯には行かぬが、矢張り肩を動かして何か物も挾める、斯う云ふ綱を肩に以つて來て付れば宜い。體を持て來て短くして此方を放すと、短いのは離れて自然と口を開いて「バ手」が物を挾むので、是は私が佛蘭西から買つて來た器械でありますが、仕事をする時にも簡單な事には使へる。斯う云ふ「バ手」があつて非常に能く出來て居る。「バ手」が自由に緩るくも出來るやうになつて居るので、是は仕事をする手としては少しの仕事をする手であります。

手は何れの國に於ても種々な物が出來るやうになつて、近來ではこんな風にして仕事をする手、裝飾の手と云ふ風な義肢が出來ては居るが、先程述べたやうな具合で、充分に完全な物は出來ない狀態である。それで斯う云ふ風な人はどうするかと言ふと、學校で義手義足を使ふ稽古をすると同時に、片手で以つて仕事をすることを敎へる。で其片手學校では右の手の者は右の手の者ばかりが同級で、左手の者は左手だけの者が同級生である。それでないと仕事を敎へる場合にも、右と左の人が一緒では、お互にとんちんかんの事をするやうになるから、左の手の無い組には矢張左の手の失ひ者が三人とか四人とか

集まつて、右の手の組は右の手の無い者ばかりを一緒にしてある。左手の人と右手の人とは仕事の手の出し具合が違ふからで、斯う云ふ風に片手の學校では種々なる注意を拂つて、指物をする稽古をさせるとか云ふ風にして、分業的に或る稽古をさして居る。隨分片腕の無い人で、技術を習つて時計の器械師や無線電信の技手などになつた人がある。其人達の話では達者な時分よりは少し割合が良つて、技手は一日十「フラン」の日給としてあるので、大變な日給取になつて忽ちの中に種々な仕事をするやうになつて居る。で此戰が濟んだ後には非常に斯う云ふ人が多くなるに違ひなからうから、何うしても工場で使ふやうになり、國家でも努めて工場持主に奬勵しなければならぬ、是が又段々難ケしい問題になる。工場の持主が戰爭中は片腕の人を悅んで使つて吳れるが、愈々戰が勝つて兩手のある滿足なる人が歸つて來ても、尙ほ片手の方の職工を喜んで使ふかどうか問題である、卽ち片手の人は戰爭中は同情の精神から使ふと云ふやうな點もあるから、戰が鎭まつて兩方の手の揃つた人が歸つて來て、其競爭に負けてはならぬと云ふので、今から考へなければならぬと言つて、總ての工場で以つて片腕だけの人で動かせるやうな便利な器械を拵へて居る。實際、器械を改良すれば兩方の腕の人は要らない、機を織る器械でも、帽子の器械でも、自動車の器械でも、總ての器械工場でも實際使つて居る器械を改良して、片手の人でも充分に仕事の出來るやうに裝置を代へて仕舞ふ。さうすれば器械の斯う云ふ風な「ハンドル」の使方も變更するとか云ふやうに、器械の方を改良して工場の持主は今から考へてしたならば、先づ今後は兩腕の人は兩腕の人で仕事も出來、片腕の職工は、己は片腕の方の工場で働くと云ふ風になつて、段々生産能率が殖えやうと思ふ。又今は專ら婦人がいろいろの職業を男に代つてやつて居るが、戰後に到り婦人が男に職業を讓づる譯には行かぬと言つて爭ふかも知れぬが、兎に角廢兵は國家の爲めに不幸にな

つたのであるから、是は國家で何等か助けんければならぬので、當人には恩給は下がるけれども、恩給だけでは生活が出來ない、恩給以外に各自に生活されるやうな仕組でやらなければならぬ。それには工場の器械の設備を更へる、體の滿足な人と競爭の出來るやうに器械を造り直すと云ふ、さう云ふ風に今から注意しなければならぬと云ふことは、何れの國に於ける醫者も技術家も注目して居るところであります。先づそれ等が義肢の進歩であります。又一方に於ては切斷端を現器械の付け工合に依つて截ると云ふやうに研究をする、で其研究が即時役に立つと云ふやうになる。スエズに於ける醫者が(獨逸人ですが)肉の截方を改良して義肢を付けた時分に肩の努力を利用するとか、切斷端の筋肉の伸縮力を利用して複雜な仕事をやらせると云ふことを研究して居る。唯斯う云ふ風な手は、直接に斯う云ふ風になるから複雜な運動とか云ふやうなことが理想的にちやんとは行かない、殊に是なども力アンスの手では上下に反へされぬ、でどうしても天然に近き手で活動自在なる手を作らうと云ふには醫者及工學家、此兩方面からして研究をして行かぬと出來ない。或人が言ふて居るのに、飛行機は初は鳥の飛ぶのを土臺にして行つたものであるが、今日では最早鳥のみを手本として居つたのではどうしても良い飛行機が出來ない、義肢も常に改良に對して天然の手指を模範として成たけ新らしい考を有つて研究をしなければならぬ。戰が終つた後には必ず理想的な義肢が出來るだらうと思ふ。で何れの方面でも費用を投じて研究をすれば、必ず人間の手に近いやうな手が出來るに違ひない、斯う云ふ風な事はどうしても醫者や何かゞ道樂的にやるのでなくして、國家的事業として非常な費用を投じて研究をして、人間を使用して研究しなければ出來ないのである。現に佛蘭西などでは陸軍專屬の研究所が出來て居つて、其處で其專門の人が、特に總て義肢義足を嵌める人を其處で診て貰らつて檢査をすると云ふ風にして居る。それには國家

に力ある、非常に有力なる公共團體が後援となつてやるに非らざれば活動自在なる義肢を作ることは出來ない。是は義肢のみならず總ての事がさうでありますが、尙は手の無い人足の無い人に對して矢張り敎育が必要である。現に亞米利加などでは片足學校が出來て、其處で練習をさせて義足を嵌めて仕事が出來るやうにして居る。斯う云ふやうに一定の準備敎育が必要で、醫者の方でも切口などの研究をして、能く義足に適合するやうにして居る。

叢談

嚴寒に處して暖かなる工夫

醫學博士　佐々木秀一

春秋の溫暖なる氣候は甚だ心地よく人體にも健康でありますが、冬の嚴寒に際しては兎角いぢけて困る許りでなく又種々の病氣殊に呼吸器病の誘發又は增惡を來たし易いのです。此寒威に處して心地よく且つ健康に過ごす方法は大略二た通りある。其一は積極的に寒に對抗し寒威に負けずに押通す方法で、他の一は消極的に寒さを避け又は人工を以て溫暖を圖り寒さに負けぬやうにするので、一は強い方法で一は弱い方法であります。其何れにしても多少の工夫を加へて嚴寒に處する事は健康上必要の事柄に屬します。

（一）對抗的溫暖法

勞働者は嚴寒に汗を流して働いて居る。筋肉の運動を盛にして居れば寒くない事は明かで誰も知つて居ます。子供は一般に安靜には仕て居られない常に何とか運動して居る。故に俗に云ふ「風の兒」であつて餘り寒い事を知らない。老人は之に反して活動が出來なく好んで安靜にして居る故に一般に寒がりで炬燵に親しみ易い。又お孃さんは兎角安坐的で、寒

さを強く感ずる爲めに坐敷の障子も丁寧に締めるに反して下女君は活動的で寒くないが爲めに寒風の吹き込む障子も平氣で明放すのであります。此平易な温暖の原理を應用するのは甚だ良い工夫です。即ち寒くて困れば活動し運動する、火鉢にあたる代りに寒風に吹かれて散歩するのです。從つて腹もへるから多く食するのです。然しながら此方法による温暖は長時間持續しない、再び坐つて靜的の仕事に從事すれば矢張寒くなる。

乃で持續的の對抗法が必要になる。夫は相當に強い寒さに處しても一向平氣に居られる方法で略言すれば寒さに馴れるのです。吾々の顏は寒中でも裸であつて割合に寒くない、是は自ら寒さに馴れたからである。頸卷を用ゐる人は頸の皮膚が温暖に馴れるが故に寒さに對して弱くなり頸卷を用ひぬ人よりも往々感冒を罹易いのです。寒さに對抗する強い習慣を得ようとするには朝間、冷水摩擦や水浴を勵行し、寒い室内に我慢し、窓を開放し、火鉢を用ゐず、温暖な室に入らず、雪中に裸體操を行ひ、足袋、手袋を用ひず、寒風に吹晒されて外出し、或は寒稽古、寒詣を敢行するのです。處が此の如き強い耐寒鍛錬法は現今では漸次衰微の傾向になつて來ました。武術や音聲の寒稽古も白衣振鈴の寒詣も、寒中に足袋をはかぬを威張つた者も何れも減少して來た。此衰微の現象が果して悲むべきか將た慶すべきかは輕々に判斷し得ませんが、然かし現在の一般日本家屋は疊に紙障子で防寒的用意は無いと云つて良いので之に住居する者は一程度は耐寒的習慣を得て居なければならぬと思ひます。火鉢や炬燵にかぢり附いて許り居るやうでは到底滿足な仕事が出來ない世の中になつて來たからであります。

(二) 防寒的温暖法

前述べた對抗的温暖法は勿論必要ではあるが夫には程度のある事で、手がゝぢかんで居ては仕事が出來ず、一程度以上の我慢をすれば如何に威張つても病氣に罹る。乃で人工的の防寒法が必要になる、前

者の強い方法に對し是は弱い方法ではあるが仕方がありません。人工的溫暖法としては著物を多く著るのも一つで「シャツ」、「ヅボン」下、足袋、手袋を二枚重ね、福々と上著外套を被ひ、頭巾に頸卷、耳袋まですれば良いのでありますが、寒さに對して餘り弱過ぎる習慣は健康上絶對に宜しくありません。

次に衣服は普通にして居て寒い日本家屋に住む場合の溫暖法としては火鉢か炬燵を用ふるのが便利でもあり經濟でもあり吾々日本人の習慣でもあり又た禮儀でもあるようになつて居ります。火鉢の溫暖法は然かしながら局所的にあつて手なり顏なり火に當つた部分だけを溫かにするので、室内を暖かにするには殆ど役をしない、故に吾々日本人の溫暖法は寒い室内に、主として耐寒的習慣を養成し我慢の出來ぬだけを火鉢卽ち手あぶりによつて補うと云ふ事であります。夫であるから少し位、紙障子に孔があいて居やうが、柱と襖との間に隙間があらうが、雨戸に節孔があらうが平氣で何とも思はないのである。一面から見ると火鉢の如き有毒瓦斯發生器具に盛に炭火を盛つて之を平氣で毒物とも心附かず室内に愛用する以上は、節孔や障子の破れ目や建具の透間が寧ろ甚だ必要であるとも云へます。然かしながら吾吾の裸火式溫暖法は決して理想的のもので無いと自覺し、漸次工夫改良する覺悟を要します。火鉢は熱の節用法が甚しく幼稚で、科學的の知識の足りないもので文明の具としては實にお恥かしい裝置です。火鉢ばかり悪く云ふのはいけない、日本の家屋が同樣誠に科學的知識の足りない構造だから仕方が無いのでせう。

(三) 理想的溫暖法

理想的溫暖法とは何であるかと云ふと、室内の空氣全體を適度に暖めて手あぶりの必要の無いやうにし火鉢を全廢するので、夫で而かも室内空氣を衞生上健康に保つような方法でなければなりません。現在でも、大きな會社や學校、病院、邸宅等では歐米の式を摸ねて理想的の溫室法を行ふものも少くは

ない、然かしながら日本の一般家屋を悉く斯の如く改良する事は差當り中々出來ない事である。私の愛に希望するのは普通の日本家屋をもう少し工夫改良して而して比較的理想の溫暖法が出來るように仕度いものだと思ふのであります。

理想的暖室法を應用するには相當な科學的知識の基礎の心得を要します。其根本の基礎となるものは大略二箇條あつて、一は室の密閉と云ふ事で、一は適當なる暖爐の使用であります。

（第一）室の密閉は熱量の經濟上、缺くべからざる必要要件で、室を密閉すればする程、少量の燃料で室を溫める事が出來る。透間風の遠慮なく侵入する室では多量の燃料を用ひても中々暖まらない、開放しの室では到底室を暖めると云ふ意味は成立ないのであります。然るに疊に紙障子の純日本室は開放同樣の構造であるので理想的暖室法は不可能だと云つても良い、假に暖室法が應用出來るにしても燃料許り多く要つて甚だ不經濟になります。故に之を比較的經濟に出來るやうにするには透間のないやうに工夫しなければならない。其工夫の中で一番大切なのが牀の構造を緻密にする事でありますが、多數の人は此點に氣が附かれません。在來の儘の構造で止むを得ぬとすれば牀の上、卽ち疊の下に油紙か厚紙か新聞紙を敷くが良いでせう。次に大切なのは天井板の透間を無くなす事で、簡單には天井の裏から厚紙で張れば良いでせう。次に必要なのが障子、唐紙及び柱との間に透間の出來ぬやうに修繕するのです。壁と木材との間に透間があれば夫も密に塗つめる必要があります。在來の日本家屋では先づ是位の處であるが、今一歩進めば牀も天井も漸次緻密の構造に改め、建具も冬期用のものは緻密に閉ざし得るものに改め、紙障子を出來得るだけ少なくするか乃至廢止するのです。室の密閉を行はんとするには、終極夫より仕方が無いでせう。尙は此改良に就ては注意すべき事が多々ありますが、複雜になるので唯だ大要を述べるに留めます。

(第二)適當な暖爐と云ふのも實は中々むづかしい問題ですが、要は、出來るだけ少量の燃料で成るたけ暖かになり、使用上手數が掛らざる構造で而して放射の熱を少くし有害な燃燒瓦斯を室内に漏らし出しては無らないのです。現在日本で一般に用ゐて居る石炭「ストーブ」や瓦斯暖爐は悉く理想的な構造ではない。何處かに良い製品が無いかしらと思つて隨分求めて見たが私は遂に見附けられませんでした。何れも燃料の經濟が良くないか又は構造が惡くて放射熱が強く燃燒瓦斯が漏れて困ります。然かし吾人の暖室的知識が漸次進歩して來れば商人も段々理想的の暖爐を製造するやうになりませう。今の處では有來りの製品で我慢するより仕方が無い。而して炭や瓦斯の暖爐は總て煙突を備へなければならないのは勿論の事で、若しも密閉した室内に煙突の無い暖爐を用ふれば夫は危險至極の事です。從つて裸火の火鉢も同樣で是は全然廢止しなければなりません。手焙式溫暖法をやめて理想的な暖室式溫暖法を採用するからにはどうしても夫より外に途はないのであります。日本室に暖爐を備へて火鉢を廢したら無格好で禮儀にも缺けるやうに考へる必要はない、昔時日本室に格好の良かつた行燈も今は電燈になり、行燈だと却つて不格好になつて居ます。

理想的暖爐には其他蒸氣や熱湯や熱氣や電氣を應用するものがあり、又た暖室と同時に陽性換氣の出來るものもありますが、私の爰に述べる一般日本室と經濟との問題には少々緣が遠いので略します。

(四)姑息的暖室法

現在の一般の日本家屋の儘では理想的溫室法は到底行はれない、然かし之に少しく工夫改良を加へれば準理想的溫室法が結構出來る事は前述の通りでありますが、夫とても一般の家庭には急には出來難い、殊に永年愛用した火鉢を室内から追出し難い事かと思ひます。故に姑息ながら火鉢を在來の儘にし、暖爐を用ゐずに出來るだけ室内を暖かに仕ようと云ふ問題も度外する譯には行かない。或は寧ろ是が吾々

當面の問題であるかも知れない。此場合に於ても理想的暖室法と理窟は同一で、第一に必要なのが室の密閉である、出來るだけ障子や襖や天井の透間を修繕し、改められるだけ硝子障子を多くする、紙障子の外に縁側に硝子戸を建られゝば猶更良い。然かし如何に建具の透間を無くしても、家人中に無精の者があつて、障子や襖を完全に締めず或は開放で置くやうでは密閉の事實は全く無效であります。第二に必要な火鉢は出來るだけ炭火を少なくして暖かいやうに工夫しなければならない。是は啻に經濟上の話のみではなく密閉した室內には炭火が多ければ多い程、人體に有害であるからであります。室內に炭火を盛に置かうとするには是非とも透間の多い室か乃至開放でなければならない、要するに開放で炭を多く用ゐるのと、密閉で炭を少し用ゐるのとは同じ結果で、前者は直接の放射熱が強く、後者は放射熱が少なくて比較的に暖室の效力が多くなるの相異であります。何れにしても火鉢は有害瓦斯を發生するもの故、換氣の分量に比例して炭の量を加減しなければならない。乃で炭が少くて暖かい火鉢はと云ふと、木製よりも鐵製か瀬戸物製が良い、淺い形よりも深い形が良い。小さいのより大いのが良い。故に瀬戸物製の達磨形の出來るだけ思切り大きな火鉢が良く、其內に灰をほんの少許底に敷いて、其深い底の中に成たけ少量の火を納るのが最も理想的であります。是は物理學上から云ふと溫の傳導を利用し兼ねて放射の方面を廣くしたもので暖室性も多くなるのであります。此理窟を應用して今少し能率の高い火鉢を工夫すべきが本當であつて、吾人の暖室的知識が進步して來れば商人も漸次そんな製品を出すだらうと思ふ。加之、此理窟は煙突用暖爐にも應用すべき筈なのであります。

(五) 溫暖法の利害選擇と衛生上の注意

人は新鮮な外氣を呼吸するのが健康上必要で又た爽快に違いなく、密閉した室內の空氣は一種の臭氣を帶び有害瓦斯も多く、從つて不健康であつて爽

快ではありません。故に嚴寒と雖も室内の窓を開放し、盛に耐寒的習慣を養成し火鉢も使用せずに仕事して居られゝば甚だ結構であります。併しながら實際に於ては、吾々の周圍の關係と時間の餘裕とは斯の如く鍛錬を許さない場合が多く、爲めに對抗法が健康を齎らさず却つて往々逆の現象を呈します。即ち寒い吹放し同樣の家に住む者は感冒性の病氣殊に呼吸器の病に罹り咳をするとか、小兒なれば鼻加答兒を起して二本棒を垂らすのが多く、肺結核や流行性感冒などに罹れば中々治癒せず、甚だしきは一家族悉く悲慘な狀態に陷るやうなのもあります。其外、對抗的溫暖法を仕誤りますと却て元氣ある活動を缺いて懷手の如き無精の恰好をなし、火鉢に噛附いて非進取的の習慣になり、或は寒い爲め知らず識らず首を屈て見苦い脊柱彎曲症を來たします。故に、對抗的溫暖法は健康上及元氣の養成上甚だ必要ではあるが程度を越して亂暴な譯には行かず、どうしても嚴寒時だけは室内密閉式の溫暖法に服從しなければならぬだらうと思ます。寒い室内にかぢかんで火鉢を側にして手を焙りながら仕事するのと、溫暖の室内にのんびりとして火鉢などを用ゐず活潑に働作するのと何れが愉快であり、何れが仕事がはかどるかと云ふ事は說明するまでもない事です。

次に止むを得ずして火鉢を用ゐながら密閉式の姑息的暖室法を行ふ段になりますと今度は幾分か暖い代りに理想的暖室法の如く行かず、兎角室内の空氣が惡くなり衞生上有害になります。最も強い寒さの直接の害は人命に關する場合が急劇に起りますが、室内空氣の少し位惡い方は急劇ではなく其害が慢性に何時となく知らず〳〵人體に及びます。故に室を密閉する式、殊に和洋折衷式を用ゐて而して火鉢や無煙突暖爐を使用する際には出來るだけ燃料を節約する事が必要であつて尚ほ其上に室内空氣の不良の度に注意しなければならぬ事になります、加之、姑息式では如何に室が溫かになると云つても攝氏十度前後が最上であつて理想的の溫暖は到底望む譯に行

かす、時にはかぢかむ手先を火鉢にかざす事になるでせう。現在の吾々日本人の大多數は、將來の日本式家屋に住む關係から、此姑息溫暖法を用ゐ火鉢の世話になつて居りますが、吾々は是非とも今一步進んで漸次に理想的の溫室法を採用するやうになり度いと思ひます。

理想的暖室法で室內が一般に暖く火鉢を全然廢しますと、無精の習慣がとれて仕事の能率が著しく增加し、寒さの爲めに起る罹病や死亡が甚だ減少する事でありませう。故に現在既に多數の執務所では大抵此式に從ふより仕方のない事になつて居る。然しながら多數の家庭では依然として火鉢式姑息法でありますから、事務員は晝間は暖い室に居り夜は寒い室に歸る事になり、室溫の差が著しい爲に又一種の害を蒙る事があります。尙ほ暖室法も屢々理想的で無く誤つた仕方をして居るのも多いやうに見受ける、卽ち燃料の不經濟な暖爐や不衞生の暖爐を使用し、或は暖爐を用ゐながら火鉢を併用し、又は暖室法が換氣法を伴はずして室內空氣を不良にし、或は暖室溫度の度が過ぎて熱過ぎ又は空氣が乾燥して咽がひからぶのもあります。一體、適度の室內溫度は何度位かと云ふに衞生學の上では攝氏十八度（華氏六十五度）前後としてあります。而して東京邊の嚴寒時に、外氣の溫度は最低攝氏零度（華氏三十度）前後で室內で攝氏五度前後の事が多く、火鉢を用ゐて攝氏十度（華氏五十度）前後でありますから姑息的溫暖法では到底適度の室溫には達しない。暖爐を使用する場合は攝氏二十度より二十五度位にする事は困難ではないが、然し高過ぐる室溫は却つて有害であるので是非とも攝氏十八度前後に留めて置く事が必要であります。吾々は習慣上、姑息的溫暖法でも嚴寒を過ごせる位であるから、準理想的暖室法を行ふ場合にも攝氏十五度（華氏六十度）を日本人の適當なる室溫として差支ないと私は思つて居ます。尙ほ注意すべきは暖室的生活法とする場合は同時に冷水摩擦や耐寒的運動を獎勵すべき事であります。室溫に

馴れて全く耐寒性を失ふと甚だ虚弱な素質を得ます。人は攝氏十五度の室内には靜座して仕事に從事して寒さを覺えぬと同樣に、攝氏五度や零度の室外でも活潑に運動してさへ居れば少しも寒くはありません。故に室内にては溫かに執務すると同時に室外に運動して耐寒性を增進する工夫を要するのです。即ち耐寒習慣の養成法は何れにしても缺くべからざるので唯だ其形式を變更したまでゞある。自然的耐寒法では一日中、間斷なしに耐寒的練習をして居り、煖室的生活法では多數の時間、溫室に居り少許の時間を耐寒的練習に費すので、前者は元始的で誤ると病氣に罹り易く且つ仕事の能率が少ない、後者は文明式で感冒的疾患に罹る事が少なく且つ仕事の能率が多いのであります。

人生と健康

醫學士　篠原昌治

人生に於ける最も大なる幸福は身體の健康でありまして、若し一朝其健康を害し病の牀に呻吟し、常に藥餌に親しむ樣になりますれば、例へ玉の臺に起臥しても其美觀を眺むる由もなく、山海の珍味を食膳に供へても之を味ふことも出來なくなります。而して人體の健康を保持するには常に衞生を重ずるといふことが最も大切でありまして、之によつて弱者は以て強健なる身體となり、强者は益々身心の完全を期することが出來るのみでなく、克く不慮の傳染病其他の疾病の襲來を豫防し、以て天壽を完ふするを得るものであります。而して衞生上最も注意すべきことは空氣、土地、家屋、身體の攝生、衣服、食物等でありますから、是等に就て其大要を申上げ樣と思ひます。

空　氣

空氣は吾人の生活上最も必要なるものでありまして、其成分は主として酸素、窒素、炭酸、水分より成り、其他小量の「アンモニア」、亞硝酸、阿巽、塵埃等を含むものであります。

空氣は常に清潔にして一定の濕度を保ち、塵埃及有毒瓦斯等を含有せざるものが最良であります。一般に海岸及森林に近き場處の空氣は新鮮でありまして、吾人の健康に適しますけれど、市街地は人家稠密にして塵埃多く、且諸種の工場等より煤煙有害瓦斯などが發散し空氣を不潔にしますから、效外に比して健康上不適當であります　殊に塵埃多き空氣は直接呼吸器粘膜を刺戟して諸種の呼吸器疾患の原因となるのみでなく、塵埃と共に病原菌、殊に結核菌等を吸入しまして傳染病の媒介をなすことがありますから、大に注意を要します。

密閉せる室及び多人數群居せる場處に於きましては、室内の空氣は容易に汚染するものでありますから、時々窓戸を開放して新鮮なる空氣と交換することを忘れてはなりません。

土　地

土地は人生の健康上至大の關係を有するものでありまして、吾人の住居に適當なる土地は、一般に高燥開濶にして人家稠密ならず、多少の傾斜ありて陰濕でなく、よく日光を受け、空氣常に清潔にして風力強からず、近傍に池沼其他汚水の停滯せる場處や塵埃の蓄積等なき處でなければなりません。殊に住居の附近に森林又は清き河川を有すれば尙ほ結構であります。

卑濕の土地に住居しますれば屢〻諸種の疾病、例へば僂麻質斯、腎臟病、脚氣等に罹り易きものでありますから、斯る場處に於ては適當な排水裝置を設けて常にこれが乾燥に努め、又樹木繁茂して日光を遮るときは、適宜にこれを採伐して日光を射入せしむる樣にすることが大切であります。

家　屋

家屋は風雪、雨露を避け、寒暑を調節し、一家族の寢食起居する場所でありますから、其構造の適否が吾人の健康上に及ぼす影響は頗る大なるものであります。

家屋の大小構造は、各人によりて甚しく相異するものでありますけれど、一般に家屋は東南、南又は西南方に向ひ、空氣の流通佳良にして、充分に日光の射入を受け、常によく乾燥して卑濕陰鬱ならず、且適當なる溫度を保つを要するものであります。

狹隘なる室内に多人數群集しますれば、空氣を不潔ならしめ、塵埃汚物等の堆積を來し、且諸種の傳染病の傳播を來すことがありますから、成るべく一室内に多人數群居せざる樣に注意せねばなりません。

室内には充分なる日光の射入を要するものでありまして、四圍隙壁を以て圍繞せられたる薄暗き室の如きは陰濕であつて、從て諸種の分裂菌が發育し易きものでありますから、吾人の住居に適しません。殊に寢室は日中光線の射入充分なる室を選ぶことが緊要であります。一般に家屋は可及的各室内に日光が射入する樣に構造すべきものであります。

室内の空氣は、人畜の呼吸、喫煙、燈火、飲食物殊に冬期炭火を用ゐる際には酸化炭素の發生によつて不潔となるものでありますから、一日中一定の時間充分窗戸を開放して換氣を行ひ、其他特に空氣を汚したる場合には隨時新鮮なる空氣と交換すべきものであります。

冬期に於きましては、室内の空氣に一定の溫度を保たしむる爲め暖室法を行ふ必要があります。暖室法としては普通炭火、瓦斯、水蒸氣、電氣等を用ゐます。此際室内の空氣が乾燥に過ぎない爲めに、水を盛りたる器を其近傍に置きて水蒸氣を發散せしむるか、又は時々室内に撒水することを忘れてはなりません。室内の溫度は普通攝氏十八度が適當であります。

室の内外は常によく掃除して塵埃を蓄めず、殊に

臭氣を放つものを置かず、汚水の排除を完全にすべきものであります。家屋の周圍には一定の空地を存し、樹木を有すれば實に結構であります。

身　體

身體の攝生は清潔を以て第一と致します。毎朝必ず先づ盥漱し、刷毛を以て齒の內外面を清掃し、且毎食後には含嗽するを可とします。毎朝起牀時に冷水を以て全身摩擦を行ふときは、皮膚の抵抗を強からしめ、衞生上有益のことであります。元來冷水摩擦は如何なる體質のものでありましても、之を行ふて差支なきものでありますけれど、身體虛弱なるものは、冬季に於て之を始めず、先づ夏季に始めて漸次身體を馴らし、且寒風強き屋外に於て行はずして成るべく屋內に於て行ふ樣にすることが肝要であります。冷水灌注法又は冷水浴等は衞生上有效なものではありますけれど、身體強健なるものにのみ行はるべきことでありまして、若し身體薄弱なるものが、急に之を行ひますれば、その爲に却て健康を害し、諸種の疾病を誘發することがありますから、大に注意せねばなりません。

全身溫浴、即ち入浴は、三日乃至四日目每に、一回行ふが適度であります。最も夏季に於きましては、毎日入浴しましても、差支ありませんけれど、一回の入浴時間は長きに過ぎざる樣に注意を要します。

手指は汚染し易く且諸種の傳染病の媒介をなすことがありますから、毎食時前にはよくこれを清洗するを可とします。

睡眠は身體及精神の疲勞を恢復する爲に最必要なるものでありまして、睡眠不足は諸種の疾病の原因又は誘因をなすものでありますから大に注意せねばなりません。睡眠時間は各人の習慣によつて相異して居りますけれど、普通は六時間乃至八時間であります。一般に夜は早く寢ね、朝は早く褥を離るゝは最も良きことであります。睡眠中の室溫は高きに過ぎない樣に注意せねばなりません。

運動は身體諸部の筋力を增し、血行を盛んにし、皮膚及內臟の機能を强盛ならしめ、消化を佳良にすることに於て最大切なものであります。而して運動は成るべく效外に於て行ふべきものであります。但し運動は過劇に失せざる樣注意せねばなりません。殊に身體虛弱なるものは極めて輕易なる運動を行ひ、且身體の疲勞を感せざる程度に止むることが緊要であります。

衣　服

衣服は體溫を保ち、外部及び身體より發散する濕氣を吸收し、外襲を防ぎ且つ皮膚より排泄する垢を取去るの用をなすものであります。

衣服の材料は主として動物性(毛織物、絹等)と植物性(木綿麻等)のものより成るものでありまして、是等は各々其利害得失を有するものでありますから、寒暑其他の狀況により適宜にこれを選擇すべきものであります。

衣服は常に之を淸潔にし、殊に直接皮膚に接する肌衣寢衣等は屢々これを洗濯して汚垢の附著しない樣にせねばなりません。衣服は常に乾燥せるものを用ゐることが緊要でありまして、若し發汗其他により衣服が濕潤しました場合には、直ちに身體を淸拭し、且乾燥せる衣服と交換せねばなりません。

衣服は一般に輕くして軟かなるものを可とし殊に冬季は充分に保溫作用を有するものでなければなりません。一般に織目の中に空氣を含むこと多きもの及び比重輕きものは、溫を傳導し去ることが少くして暖かきものであります。故に毛織物は絹麻等に比べて暖かく感せらるゝものであります。

衣服の大小廣狹等はよく身體に適合する樣にし、餘り狹隘なものを使用せぬことが大切であります。

蒲團、敷蒲團等は時々日光に曬し、敷布は屢々洗濯せるものと交換せねばなりません。

帽子は輕くして窮屈ならざるものを用ゐ、靴は成るべく足の大小形狀に適合し、且常に墨を塗りて皮革の硬固とならぬ樣に注意せねばなりません。

水

水も亦吾人の生活上最も大切なるものゝ一つでありまして、飲用、食物の調理、食器の洗滌、其他水を要する場合は極めて多きものであります、飲用水としては井水、河水、泉水及水道水等を用ゐます。飲用水は無色透明、無臭無味で、可及的夾雜物を有せざるものでなければなりません。若し清涼なる飲料水を得ることが出來ない場合には、これを濾過して使用すべきものであります。其際「フランチル」、羅紗、砂等を用ゐます。水を一旦沈澱せしめ、其上清を濾過して使用すれば尙結構であります。水中には時として諸種の病原菌を混入して居ることがありますから、其爲に不慮の傳染病に罹り、殊に都市等に於きましては、飲料水によつて傳染病の大流行を來すことがあります。夫故何等かの事情によつて傳染病毒を含有する疑ある水を使用せねばならぬ場合には、必ず先づ一旦之を煮沸して用ゐる樣にせねばなりません。それは單に食料水のみでなく使用水に就ても亦同樣の注意を要するものであります。

食物

食物は身體の發育及び生活の上に於て一日も缺くべからざるものであります。而して吾人の常食とする食品は肉類、乳汁、穀類、野菜、果實等であります。是等の食品の主要成分は蛋白質脂肪、含水炭素等でありまして、其他水及び小量の無機鹽類等を含有するものであります。

食物としては一般に滋養に富めるもの、即ち蛋白質(獸肉、鳥肉、魚肉、鷄卵等)を大切なるものゝ樣に考へて居るものがありますけれども、事實に於ては決してそうではなく、吾人は蛋白質と同時に脂肪、含水炭素等を要するものでありまして、食物は其種類の如何に拘らず、吾人の生活上必要なる熱量を供給し、且食慾を滿足せしむるものでなければなりません。

吾人の日常の食物より供給せらるゝ熱量は

蛋白質一瓦に付　四・一熱量
脂肪一瓦に付　九・三熱量
含水炭素一瓦に付　四・一熱量

であります。

然しながら食物の選擇は、常に其熱量にのみ重きを置き、其分量の多少に就ての注意を怠つてはなりません。何となれば熱量多き食物のみを攝取しますれば、其滋養價に於ては充分でありましても、其分量少くして吾人の食慾を滿足することが出來ませんから、斯る食物では常に空腹を感じまして、活動することが出來ません。之に反し徒に其量多くして熱量少きものを攝取しますれば、吾人の生活上に必要なる熱量を得る以前に、先づ滿腹を感じ、從て滋養價の缺乏を來し、身體を衰弱せしむる樣になります。而して普通健康狀態のものでありますれば、食物に就ては其熱量等を顧慮することなく、其人の體質に應じて適當なる食品を適量に攝取すればそれで結構であります。然し食品は一種類に偏せず、成るべく種々なるものを混せて喰べる方がよきものであります。

酒精飲料、煙草、茶、咖啡、其他の嗜好品は多量に用ゐれば有害でありますけれども、これを適量に用ゐれば何等差支なきものであります。

笑と豈の女

醫學士　高峰博

或人が世の女を罵倒して斯う云つた事があります。

「女とは嫉妬を骨とし、虛榮を肉とし、笑を以て其の皮膚とす。而て男といふ愚物に寄生する低能の怪物なり」

と。併し、自分が男だからとて、女のみを罵つたわけではありませぬ。世の男に對しては、

「男とは煩惱を骨とし、野心を肉とし、力を以て其の皮膚とす。而て女といふ低能の怪物に血を吸は

るゝ恐物なり」と申しました。素、是れ一場の漫罵倒語、自ら其の公平の言なりや否やを存知致しませぬ。而してたとひ嫉妬虚榮の骨肉を蔽ふ爲の笑ひとはいへ、まことに女の笑は貴き哉。紫式部は

世の中に花てふものゝ無かりせば
春の心はのどけからまし

と詠じたさうでありまするが、諸姉よ、眞に野山の草木に花無くば、如何に荒涼たるもので御座いませう。そして世の女に笑てふものなくば、人の世は如何に寂寞たるもので御座いませう。げに、春の心ののどけきを花笑ひ鳥謠ふとこそ申しまして、漢字でも花に於ける「咲く」と、人に見る「笑ひ」とは全く同一字で、音も同じく「セウ」であります。即、一談咲荀くもせず」などゝ書く事もあります。

外面如菩薩、内心如夜叉は人の最、怖るゝ所ながら、内心既に夜叉ならずば、よのつねの情ある人が、何を好んで外に現るゝ笑を抑ゆる要があらう。且夫れ波風繁き人の世に在る以上は如何に貴き坐なりとて、いかで一時當坐の心情に曇り無く汚れなしとや斷じ得べき。此の内心の苦痛をまづ自ら鎮め得る手段は我が顔に笑をつくる事であります。そして夫や家族に對し、又世間の人に對して我と同じくいやな思ひを感ぜしめざる可き最良の方法は溫顔慈容を以て之に應接するのにある、即、笑を以て人に對する事であります。人は、嬉しくても笑が自然と生じまするが、又外面の欣然たる笑粲はよく人をして、其の心を解けしむる。これ身心相關の妙理でありませう。

翻つて思へ、我等に笑ひの有るお陰で、夫婦の仲を睦じく、人との交際も滑かに行くのであります。勿論、睦じければこそ、始めてお互に笑ひ合ふのでありませうが、そこは人の世の常、如何に幸福にして又意氣投合の夫婦仲とて、一片犠牲の心が其の雙方に存せずば、お互に機嫌のよい時は笑ひもしようが、何か氣まずい事あらば、さもするといがみ合ひ

になり易い。此の際、すべてを笑を以て應ずる丈けの寛容と忍耐とが有つて欲しい。晝の女の尊きは全く此の笑ひがあるからである。又此處の苦衷と犧牲心とはいみじくいとしいが、しかもゆかしき德である。修養した女でなければ、此の笑は笑ひ得ない。賤しき業の女共は夜よく笑ふ。これは男に媚を賣る爲であつて、晝笑ふ女とは其の心事に霄壤の差がある。私は嘗て本誌に「花と朝の女」を書いて「朝の女は愛すべし、夜の女は親むべからず。前者は家を興し後者は身を破る」と申しましたが、之を「笑」てふ點から見れば「晝の女の笑は尊むべく夜の女の笑は怖るべし。前者は天女の聲なるべく、後者は妖魔の呪ひとこそ知れ」と言ひたいのであります。

抑、分けても婦人てふものは、其の境遇上、又體質上、ともすると嫉妬心が起り易い。そして他人から見れば、犬も喰はぬ様な喧嘩を夫婦の間に醸す事がある。之を最も婉曲に叙したものは唐寅の左の詩であります。

花を妬む歌(妬花歌)

昨夜海棠初帶ㇾ雨。數朶輕影媚欲ㇾ語。佳人曉起出ニ蘭房一。折來對ㇾ鏡比ニ紅粧一。問ㇾ郎花妍妾顏好。郎道不ㇾ如ニ花窈窕一。佳人聞ㇾ語發ニ嬌嗔一。不ㇾ信死花勝ニ活人一。把ㇾ花揉碎擲ニ郎前一。請郎今夜拘ㇾ花眠。

昨夜海棠初めて雨を帶び、數朶の輕影媚びて語らんと欲す、佳人曉に起きて蘭房を出で、折り來つて鏡に對して紅粧を比ぶ、郎に問ふ花妍なるか妾の顏好きか、郎は道ふ花の窈窕たるに如かずと、佳人語を聞きて嬌嗔を發し信ぜず死花の活人に勝るを、花を把つて揉碎して郎前に擲ち、請ふ、郎、今夜花を抱いて眠れと。

卽ち此の詩は海棠の花に配するに有夫の佳人を以てして、佳人の妬む狀を寫したものであります。「佳人が雨を帶びたる美しき一枝の海棠を手折り來つて、郎君に見せ、妾と此の花とどちらが美しう御座いますかと問うた。郎君はイヤそれは海棠の方が美しいと答へたので、佳人の心、忽ち嬌嗔を發し、あられ

もなくかの花をば引き裂き折り挫いで郎君の前にはうり投げ、さてはツッとばかりに泣き立てゝ、あなた今夜から此の花を抱いておやすみ遊ばせ」と、すねる有様を歌うたものであります。寔にはや、他愛もない兒戲に等しき悲喜劇ながら、世間の實情は皆比々として此の類を示してゐるではありませぬか。

此の際、此の痴態を免れしめ得るものは笑の功德、笑ひ得る心の德であります。

扨、笑と申しましても、必しも滑稽なる故の拘腹にも非ず、又賤業婦の旦那に對する嬌態にも非ず、胸の底の溫情が自と口邊に漲り、眼元に湛えらるゝ情態を云ふのであります。此の笑をなし得る女は、その身體は屹度健康に違ひない、そして世に最も幸福なる人に違ひない。げに、云ふ迄もなく樂しき時、健かなる時に笑ふは固より不可なく、否羨むべき事ながら、人生蹉跎多く、世路常に不如意。此の間に處して其の修養の效の最も現るゝものは唯單に樂しく嬉しく、また健かなる故にのみ生ずる笑に非ず、強ひて努力して人前を繕ふ笑にも非ず、萬事萬端、皆有り難き靈界の偉力の恩寵と感激して、心の奥底より溢れ出る法悅の笑ひでなければならぬ。人の前を繕ひての笑は、如何に努めたりとて甚淋しい。物質の滿足に因る笑は、其の聲愉愉然たりと雖、空虛である。眞に感謝の念を以て世に處する、信仰心厚き人の笑は、口邊の波動微かなりとても、彼の全身に溫かみがある。又實際、女と云はず、男といはず、斯かる人に於いてこそ眞に肉體の健康も得らるのであります。

妊娠時に於ける浮腫に就て

醫學士　山崎清

私は本誌前號に於て豆破利(つわり)に就て述べたことがありますが、つわりと同樣に妊娠時に善く現

はれる浮腫(むくみ)の事に就て少しく述べて世人の注意を促し度いと思ひます。

さて婦人が妊娠しまするど色々な全身及び局所的變化が起ります事は皆さんの御存じの事實であります、其中でも比較的多くの方が出逢ひまするのは浮腫でありまして、其浮腫が下腿許りに來る事もあれば、顔面殊に眼の周圍に現はれる場合、或は掌背、足背又は全身に現はれる事があります。初めは脚が重い感じをなす位か、又は眼の周圍或は顔面に腫れぼつたい樣な感をなす位でありますから、此れを等閑に附して左程恐しいとも思はず、寧ろ妊娠に伴ひまする普通の事の樣に考へて手當もせず捨て置く方が大分あります、然しながら此れは產科學の方から見まするど大なる誤たる考へでありまして、實に恐しい一種の病氣の一症狀として來るのであります、故に妊婦又は家族の方が此浮腫に氣が付く時分には本病は可なり進んで居る場合があります。

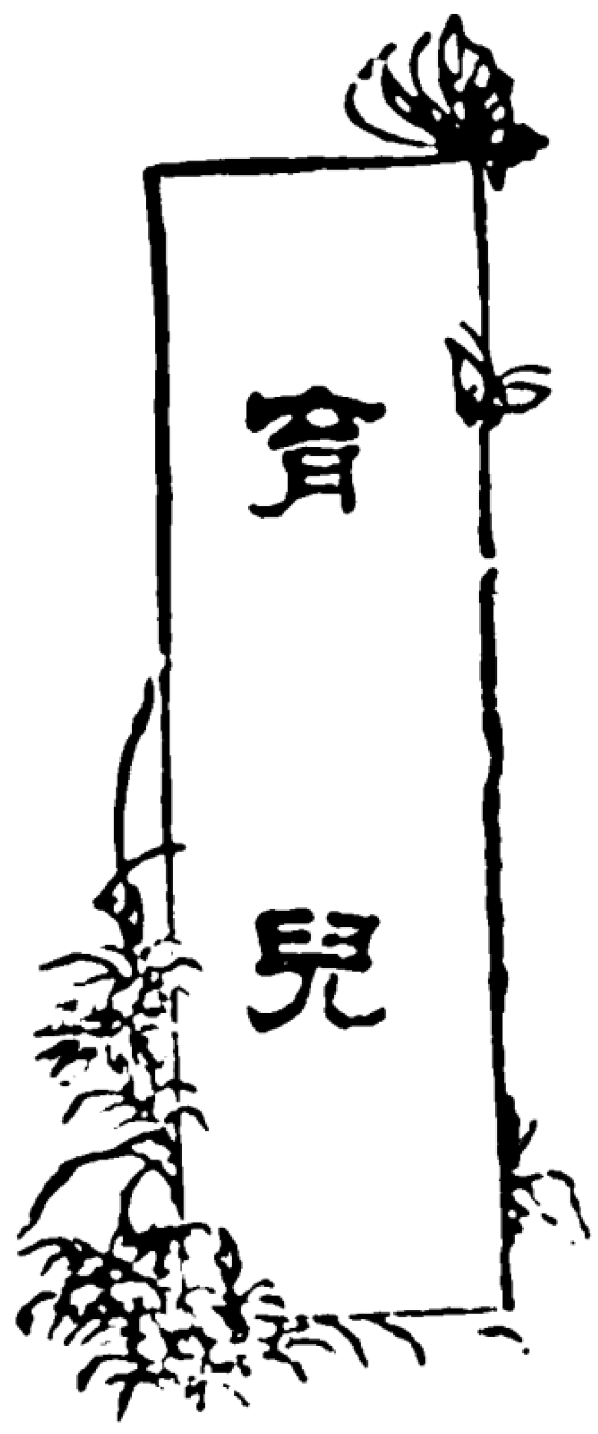
一體此浮腫は如何して起るかと申せば(一)脚氣、(二)心臟病、(三)腎臟病、(四)妊娠子宮の靜脈壓迫等が原因となり其一症狀として浮腫を呈するのであります。

妊娠前から脚氣、心臟病、腎臟病抔がありまして全身又は顔面、掌背、足背、下腿等に浮腫を呈して居る事がありますが、左樣でなく妊娠前は少しも變り無い方が妊娠して何ヶ月か經てから始めて浮腫の表はれる場合が隨分多くあります、尤も初め極く輕度でありまして呑氣な方抔は不注意でありまするど氣が付かないで可成り進んでから始めて氣の付く方があります。然し氣が付いたならば直ちに醫師の診察を受け、手當をして貰へば善いのでありますが、中には少しも意に介せないで、心配もせず却て妊娠に浮腫の來るのは殆ど普通の事の樣に考へ、お產がすめば自然に宜くなるものと思て捨て置く方が隨分ありますが此れは甚だしい危險の至りでありまして此れが爲め貴重なる生命を犧牲にする方は少くありません、卽ち初め極く僅かな浮腫が次第に重くなり

まして、少し身體を動かすのも大儀であり又は動悸がしたり息切れがしたり、遂には牀に就く様になります、或は臨月に近づいてから突然彼の恐しい子癇と申して癲癇の發作の様な病氣を起します、此子癇と云ふ病氣は産科醫又は産婆の方から見まするとお産の時に起る病氣としては一番恐しいのでありまして發作時には産者は人事不省に陥り、齒を噛みしめ、口角より泡を出し、全身四肢は痙攣を起し、其苦しい様な容態は到底平氣で見て居る事は出來ません、況んや家族の方母親抔は居ても立ても居られない位夢中になりまして實に氣毒の病氣であります、其發作數多く又は烈しい時分には産者は爲めに心臓も弱はり生命を失ひ、從て胎兒も母體と運命を共にするか或は母體は助かつても胎兒が死亡して生れるか等の不幸なる運命に遭遇する事があります、此他脚氣や心臓病に侵されて居る方抔は妊娠初期には大した事が無いが、妊娠月數の進むに從ひて心臓の具合が惡くなりまして遂にお産に堪へ得ない事があります、是等の病氣ある爲め又は腎臓病の爲めに流産又は半産と申し妊娠七ケ月前にお産になり、或は早産と申し月滿つる前にお産となる事があります、或は早期胎盤剝離と申し胎兒が娩出されない内に胎盤が先きに剝れて出血を招致し、母兒の生命を危險ならしめ、或は弛緩性出血と申しお産がすみましてから降り物が甚しくて母體の生命を侵す事抔があります、妊娠中の脚氣が治癒せない爲めに産褥になりましてから嬰兒に乳を與へられない場合があります、尤も妊娠子宮の爲め靜脈が壓迫されて輕度の浮腫を來して居る位なれば前者の場合に比較して先づ宜敷方でありますから、妊娠中成る可く足脚をさげ無い様にし、牀に臥す時にも少しく高く置く様にすれば血液の循環は多少善くなります、然し妊娠時に浮腫がありますのは普通の事ではありません、何か異常が有る事と心得て早く産科專門の醫師に診察して貰ふ必要があります。

私は世人が此妊娠時に於ける浮腫に對し餘り無

頓著で捨て置き色々な重い症狀が起りましてから驚き周章して醫師なり、產婆なりへ參る方を比較的多く見受けますから、恐しい病氣の一症候として現はれる場合ある事を御注意迄に述べました次第であります。



小兒の急病の手當

醫學博士　豐福環

本篇は昨年文部省の主催で家事科學展覽會の開かれました際に、女文社が家庭應急手當「醫者を待つ間」と云ふ小册子を頒與せられました、その中の一篇であります。

小兒の急病の見方

凡ての病の中でも殊に小兒の病氣は一瞬間を爭ふ事ある故、病初の手當が肝要です。故に保育者たるものには多少病兒に對する智識があつて欲しいものです。でないと第一醫師の來る迄の手當が講じられないことになる。

例へば同じ風邪を引くにしても、三十八度足らずの熱で小兒がグッタリすることもあるし、八九度の熱でも元氣のいゝこともある。一回嘔吐してグッタリすると後から熱の出ることもあるし、度々嘔吐下痢しても元氣のいゝ場合がある。凡て前者が重病で後者は輕症であります。斯樣に一般症狀の觀察が必要です。

（一）元氣が惡るい　常に元氣で良く肥り發育のいゝ小兒が、機嫌が何となく惡るい。大きな小兒なら外から歸つてスグ寐轉ぶ。時には板の間へ寐る此場合には大抵熱があるものです。次には意識の狀態が變る、例へば始終ウトウトと眠り勝になり、遠方をボンヤリと眺め、顏色が茫然としてゐる。此場合には無論重い病氣です。若し此場合下痢な

どあれば消化不良が一歩進んでゐる。腦の場合には腦膜炎を起したもの。初生兒の場合はスグ顔色が變り一歩進めば手足が青紫色を呈して來る。此場合は重い症氣で、大きな小兒ならば大病であります。

(二) 呼吸　呼吸氣病の場合には息使が荒くなる。嬰兒では一分間に五十、七十、百もすることがある。此の場合には肺炎を疑ふ。高熱でも呼吸は早くなる。心臟に異狀のあるときも促迫する。就中小鼻が動く樣なときは強い呼吸困難を示すもので、大抵は肺炎です。さもなくば病氣の末期です。

(三) 食慾　食慾が減じた場合は何か病氣に罹つてゐるのです。是は胃腸の病氣のみでなく他の病氣にも見る症候です。

(四) 眼の色　素人方のよく氣のつくことです。一皮眼が二皮眼になることが病氣の時によくあります。下痢などの場合にはよく半開のまゝ眠る。又榮養障碍などのとき白眼が青味を帶びることがあります。眼がボンヤリしてゐるときは腦の病氣か他の重い病氣です。眼が赤くなり又は眼ヤニが增すときは目自己の病氣です。

(五) 泣聲　重症の小兒は泣けなくなり、乳兒脚氣の折には聲が立ませんことがあります。夕方發作的に泣くのは所謂夜啼です。又疼痛の場合にも發作的になくものです。泣聲は種々の形で種々の病氣を示しますから最も注意を要します。

(六) 運動　赤兒の手足の運動は特異と一種角張た動かし方を致ます。手足に痛みがあれば動かしません。麻痺の場合には弛緩してゐます。痙攣のときは此反對です。腹痛の時は足を屈めて泣きます。

(七) 腹部　哺乳兒の腹部は大きいのが普通です。併し異狀に膨脹したり、凸凹が視えたり、特に陷凹した場合は病的です。

(八) ひきつけ　輕い時分は唯ピク〳〵する。目を上視する。酷くなると手足を曲げて突つ張つたり強直狀態になる。これは痙攣の強く來るものです。

（九）大顖門　大顖門の異狀は大事な兆候です。發育のよい子は是が平面に在る。榮養が不良だとひどく陥凹する。高熱の時は多少隆くないこともあるが隆起が甚だしき時は腦に水がたまつたので、腦膜炎か又他の腦病です。痙攣の際には通常大いに隆起してゐる。是が普通より大なる時にも注意を要します。

（一〇）嘔吐　哺乳兒は熱、感冒、胃腸、腦が惡るくても大抵嘔吐をするもので、その他の模樣に因つて種々に判斷します。

これで大抵應急手當の豫備智識は出來たことゝ存じます。

以上に對する手當

（一）腹痛の時　少し熱目の濕布をします。猶泣き止まぬ場合は灌腸を行ひ、未だ癒らぬ場合（醫師の來ぬ時）には冰罨法を施します。

（二）熱ある時　熱の測定は小兒の額に手を當てることもよいがこれは當にはなりません。發汗の場合は冷たいし、惡寒の場合は顔色が蒼冷たりし母の手の溫度によつても異つて來るから是非體溫器が必要で、普通股間で十分乃至十五分間行ふがよろしい。體溫器は餘程いゝのを備へる必要があります。普通小兒の溫度は三十七度以下です。熱ある場合には冰嚢で頭を冷やすことが肝心です。それも冰枕（枕の中へ冰片と水を一杯入れて枕内の空氣をなくすること必要）を使用して小兒の首から背へかけてするがよい。そして又灌腸する。若ひどく高熱のある場合は、左の乳の上へ冰嚢を置けばよろしい。性のいゝのはスグ一二度は下熱します。初めのときは腦の疾患がなくてもよくひきつけを起し易いから冷やすのです。

▲冷して惡い場合　高熱でも惡寒があり、指先手足顔耳などの色が青みを帶びる樣なときは凡て冰を去り手足を湯「タンポ」で溫める、惡寒が去れば冷してもよい。

百日前の乳兒や早産兒や衰弱した小兒は冷しては

いけない。冷す場合は水を用ひ又は氷片を少し之に加へる位でよい。此際時々皮膚に觸て見て體溫の急激な下降を注意せねばなりませぬ。

▲熱が落ち過た場合　體溫三十五度前後のものには室を溫めて湯「タンポ」を入れるやうにする。時として熱い湯にて入浴の必要なこともある。

(三) 發疹病　發疹或は發疹性のものでも矢張り初は冷やしてよろしい。然し冷やし過ぎぬ樣に注意し空氣のいゝ部屋に安臥させるべしです

(四) 下痢の場合　消化不良、疫痢、急性腸加答兒では醫師の來るまで一體に食物は與へぬがよろしい。要求するときはつまり病氣が輕い徵故多少流動物を稀薄にして與へてもよい。疫痢の場合は高熱の時と同方法で冷やし、灌腸をやり、食物は番茶麥湯の外與へず、足は湯「タンポ」で腹は蒟蒻で溫めてやります。そして食鹽水三百瓦か五百瓦で子宮を洗ふ「イルリガートル」で腸を洗滌します。「ヒマシ」油でもあれば茶匙三杯位飲せ靜な部屋にねかせればよろしい。

(五) ひきつけ　家内中大騷ぎして大聲に其子を呼ぶのは極く惡るいことで、安靜に臥かせることが必要なんです。衣服をユルクしてやり、多少暗い部屋で軟かい蒲團にねかせて、前に申したやうに頭をお冷しなさい。若し腦自身のものでない限りはすぐによくなります。凡ての刺戟を取る上から一度灌腸するのもよろしい。

(六) 感冒の場合　高熱でセキ、ノドを痛めて居る場合は吸入を行ひ、濕布繃帶を三時間に一度位づゝやります。

(七) 「チフテリヤ」の場合　この時は往々にして手後れとなりますから醫師を迎へる時に電話でなり、使でなり特にそれらしいと云ふことを豫め知らせておく必要があります。すれば醫師はその用意をして參りますから、手後にならずに濟む場合が多いのです。他の場合でも大體の容態を申送ることは必要です。

教育上及醫學上注意すべき兒童の性癖に就て（承前）

醫學士　杉田直樹述

子供が歩き始め又は口を利き始めますと、面白半分と、一つは早く智慧をつけやうといふ親の慾のため下らぬ藝當を子供にやたら仕込む人が多いが、之はむしろ自然の發育に任しておくべきものであります。又乳離れの時にも急に又早期に大人の食物と同じ食物をやつたり、又あまりいつ迄も乳斗りのませておくと、いづれも發育に要する成分に不足を來して却つて發育の害になることがあります

　上記のやうな身體の方面の注意斗りでなく精神的の躾の方も少々申し上げますならば、子供が何か失策をした際には、之を叱るにはいきなり叩つたり捻つたりして體罰を加へることは却つて性質を卑屈にしていけません。むしろ諄々と其爲したことの良くないわけを話して反省させるやうにせねば叱つても効がありません、又叱るべき場合には其場で即座に叱り改悛の色が見えたらすぐ許してやらねばいけません。詫びても／＼いつまでも聞き入れずに打ち叩いたり、又數時間乃至數日經つてから既往のことをとやかく云ひ出して叱つたりすると、子供は徒らに親を恐怖し、親に對して病的な考へを懷くやうになり、却つて後悔謝罪の念を起さず反抗するやうな態度を誘發して、効よりも害が多いのであります。學校などでも一時の出來心又は過失でやつたことに對して數日も引きつゞいて留置にしたり、又殊更衆目にさらしたりするのは、子供の小さい胸に却つて悪い影響を起すものであります。

　又子供には小さい時から禮儀と節度とを躾けなければなりません。親も子供には丁寧な言葉使ひをし大人同志の遠慮のない所はあまり年行かぬ子供に見せしめぬ様しなければなりません。下女下男共の雜談などは決して子供の耳に入れてはなりません。是

等は小さな頭にいろ／＼無稽な空想を誘發して後果は宜しくありません。お伽話や神話などは子供の空想の盛んな時代には却つて思はぬ惡果を導くことが往々あります。

子供は須らく子供同志で遊び、遊戯、輕い勝負事を樂しませるがよろしい。又家の内外にある家具などの用途を追々覺えさせるが宜しい。而してよく清潔の風を仕込み、汚れを厭はぬやうな氣質を作つてはなりません。遊戯は女の子は女らしく、男の子は男らしき遊びをさせ、決して本性を矯めるやうな他性の遊びに耽らしてはいけません。子供がよく耽る遊戯で縄飛びと「ローラースケート」は永くつゞけてやるのは神經系の發育によくないやうです。

身體竝びに神經の發育のため一番いゝ遊戯は戸外の遊戯で嬉戯し共樂する底のものです。日本では鬼事、水泳、舟こぎ、球投などはまづ無難の方でせう。女子もよく幼い時から適度に身神を是等の遊戯できたへておけば決して鐵砲の音に驚いたり、犬が死んだとて氣を遠くしたり、汽車にのつて醉つたりいふやうなことはありません。

男の兒でも又女の兒でもあんまりお母様の腰巾著になる癖をつけるのはよろしくありません。或程度迄は獨立して自分獨りの考へで子供相應の問題は片をつけるやうな習慣をつけることが肝要であります。或上流の家庭でも寢牀の始末、朝夕の後片附、御自分の部屋の掃除、紙細工やお人形遊びをした後のちらした場所を綺麗に取片づけるのは凡て子供御自身の責任といふやうにきめてゐられる御家風もあるといふことであります。又子供のいゝ性情を養ひます上には母親又は家庭教師が心して少さい時から自然を愛すること、即ち草花の手入、蟲や鳥や飼犬の世話、それに月や雲やの美しさを賞することを御敎へになるのが必要であります。是等の性情の敎育は今日の學校では全く閑却されてをりますから、是等の美しい情操は家庭で御仕込にならねばなりません。少い時斯ういふ風にやさしい性情を養ふことは

惡い性癖を矯める上に於て著しい效があるものであります。

現代では早敎育といふことが民間の一問題となつてゐるやうでありますが、之に就ては敎育家の立場を離れて純醫學的の立場から我々にも多少の意見はあるのでありますが、今日は之に就て詳しう申上げる暇もございません。とにかく私共が四五歲であつた頃、即ちざつと三十年斗り前迄はまだ幼い子供が四書五經の素讀や千字文の手習ひやで隨分無意味な早期敎育を施されましたが、其反動として制定された純敎育學的立場からいたしました小學校の敎程は、今度は大層子供を劬はり過ぎたやうな寬大な課程で、學校斗りに任せておくと授業時間が少なく終日中子供は遊戯の時間があまり多いと思はれる位であります。制度では滿六歲から敎育を始めますが實際は就學の始めに滿七歲に近い者も少なくない。そして學校では主に智育の訓練が主でありまして性癖の上まで親切に一人々々顧みてゐる暇が敎員にも學校醫にもありません。從つて子供の智能の活動が始まり且性情がやゝ芽を吹き出して來る滿二三歲の頃から向ふ三四ヶ年の間は全く家庭と其周圍の者の感化によつて子供の性格の基礎が作られて參りますので、幼稚園の設けもありますが、先づ大體に於て申しますると醫學上から云つて子供の性格の定まらうとする最も大切な發育時期は全然兩親の手一つに任せられてあると申して差支へありません。此間に一寸した親の不注意や或は敎養の上に過失があつたゝめに子供の將來に重大な影響を及ぼすのであります故、特に四五歲乃至八九歲の子供の性癖の如何は精神神經の衞生といふ上から申して決して忽せに出來ないのであります。

以上申し上げました事を更につゞめて申し上げますれば、幼い子供殊に四五歲乃至八九歲位の間にいろ／＼性格に變調を來し親も持て餘すやうな、或はどうも將來のため捨ておき難いやうな病的な異常な性癖を持續性に示しますことは其の子供の將來にと

つて重大な運命が待つてゐることを豫言するものであります。先天性の精神低格と申すものゝ外、親の躾の不注意から斯ういふ惡習を生み出す場合もありますが、又時には先天性に性格異常を起す素質のある所へ周圍の境遇から容易くその性癖が誘發されて現著になるといふやうな場合もあります。とにかく先天性にせよ後天性にせよ性格の異常や智力の異常を幼少の頃から有してゐるものは、年頃になつて兎角精神病や不治の神經病を發することが多いのでつまり幼時の性格異常はその後來起る病氣の前兆又は下地であることが多いのでありますから、是等の異常な性癖は決して親御や敎員の方々で輕くとらず、事情が許すならば家庭醫、校醫又は專門醫と早く相談して充分に其の原因を確めて貰ひ之を矯正し適當な治療をして出來うべきだけ後來不治の疾病に陷らないやうな豫防の道を講じなければなりませぬ。又先天性に素質があり得る子供に對しましては出來る限り親や家庭敎師はその躾に注意して剛健な風習に馴ふやうにし、いろ〳〵申上げたやうな不注意から惡い性癖を導き出し延いて不治の神經病にかゝらぬ様、殊に文明開化の今日上流中流を形づくらるゝ社會の中堅の御家庭に希望して已まないのであります。

家庭衞生

老人必用養草

香月牛山先生は德川時代に於ける實地醫家中でも最も穩健なる老大家で高貴の方々の御脈もとり自分も八十五歳まで長命された人ですが正德年間に著はされた「老人必用養草」と云ふ三卷の書物がありまして、第一卷は養老の總論、第二卷は飲食の說、第三卷は衣服の說となつて居りますが、その豐富なる經驗と學識とを道德的に綜合して極めて平易通俗に說かれたものであります。但しその衣服飲食の說に至ては今日から見れば是非訂正し或は新に說明を加へねばなるまいと思はるゝ箇處も尠ないので

今茲には其の總論だけを抄出して、老人の方々又は老親に孝養を盡さるゝ方々の御參考に供し度いと思ふのであります。

凡そ人の子となりては、その親をやしなふ事をしらずんばあらじ、烏鳥反哺とて聲かまびすしく、色黒く喙ふとくかたち見にくき惡鳥すら、巢の內にその親をはぐくみかへす事をしり侍れば、いはんや萬物の靈長たる人においてをや、されば聖人の敎に孝は德の本、百行の長と說給ひ、釋氏の敎の家を出てその姓氏をたつだにも、釋尊もその父を迦惟に省し給ふとあれば、儒釋の二門共に孝をもて道の大本とし給ふ事しかり、孔子に孟武伯の孝を問ふ御答にも父母はその病のみこれ憂ふとのたまへば、人の子となりては常に其身をよく愼み保養し、病のなきやうにして父母の心をやすんぜしむべきなり、又其老父母につかうまつるには、常に飲食衣服居所に至るまで萬に心をつけて、老をやしなふわざをしるべし、こゝもて周禮に六養といふ事を說きたまふに、養老をそのひとつに定め置れしなり、又人の親となりても常にその身を保養し、病なくしてその天年をたもつ事をしるべし、是又その親の親に對して此身をそこなひやぶらざるの孝心なるべし。

人の壽命はおほく百歲を以て限りとす、いにしへより上壽を百歲中壽を八十歲下壽を六十歲と定めて、長短の天年とするなり、天年とは父母より受得たる所の虛實にして、上下中の壽命をつくして死するといふなり、人の此世にいける甲斐ある、仰ひて君父につかうまつり、俯して妻子を養ひ、五倫の道にたがはず、行ひ餘力ある時はこの文を學び、古今の事をしりわきまへなるべき程は壽福をうけて喜び樂しむ事をしらざらんや、愚なる人は此心をさとらず、たゞ私慾を恣にして老を養ふの術をしらず、元氣をそこなひ病を生じ、父母より受得たる所の天年を短ふす、あはれまざらんや、貴き事舜禹の天下をたもち、富る事陶朱猗頓がごとくなればとて、壽命短ければ何の益あらんしかれば天下にもかへがた

きものは、壽にあらずや、書經に五福を說給ふに壽をもて第一のさいはひとしたまふ事故あるにや。
人わかき時は血氣いまだ定まらず、物每にこゝろをうつし情をつくす事うとく、たゞ我意にのみまかす、學問をつとめ諸の藝術をならへども、その事おほく熟さず、四十五十にもいたれば、日々に見もし、聞もしするに廣く、世變に通じて知識おのづから開き、言行共に誤なくしらざる事いまだよくせざるわざをも習ひ得て、人道の成就する事壽を得ざればなりがたき事なり、孔子の三千人の御弟子の中に才德彬々たる事顏囘に過たるはなし、され共不幸短命なれば、道統の傳をつぎたまはず曾子は顏囘にたくらぶれば魯鈍なる人なれ共、長生し給ふ故に一貫傳授の道統をつぎ給ふ事なり、王勃の秀才も短命なれば文章の傳ふる事すくなし、本邦のいにしへいづれの御代にか有けん、たゞわかき人をのみ思ひて、四十になりぬるをばうしなひ、あるは深山幽谷に捨ける事ありしに、何某の中將とやらん、親の七十にちかきを二人持たりけるを、家の內にかくさんとて夜々土を掘て其うちに家をたて、それに籠すゑて養ひ給ひけり、或時唐の帝我國の智惠をこゝろみんとて圓かにうつくしくけづりたる木の二尺ばかりなるを渡して、此本末いづ方にと問ける、其時の人はみな若きばかりにて、知識の此事に及ものなくて帝もおぼしめしわづらはせ給ふ、此中將父の御前に參り、しかじかの事をかたり給へば、たゞ早く流るゝ川に立ながらよこさまになげ入れ見んに、かへつて流れん方を末としるべしと敎し給ふ、中將まゐりて我しり顏にて人々を具して川になげ入たるに、さきに流るる方に、しるしを付てつかはしければ、まことにさなりけり、又ほど經て後七曲にわだかまりたる玉の中はとをりて左右に口のあきたるちいさきを奉りて、これに緖をとほして給らん、此國にみなし侍る事なりとて奉りたる、御門此世にあらゆる物の上手にとはせ給ふに、いづれもしらざりける、又中將かくと親に語り給ふ、大なる蟻をとらへて二斗が腰に

ほそき絲をつけ、又いますこしふときをつけて、あなたの口に蜜をぬりて見よといひければ、さて蟻を入たりけるに、蜜の臭をかぎて誠にいとゝく穴のあなたの口に出にけり、扨その絲のつらぬかれたるをつかはし給へば、日本は賢かりけりとて、その後はかかる事もせざりけり、此中將をいみじき人に思召て、何事にても望みにまかせ位をも給るべきと有けれ共、更につかさ位も給はらじ、たゞ老たる父母のかくうせて侍るをたづねて都にすまする事をゆるさせ給へと申ければ、やすき事とてゆるされにけり、萬の人の親これを聞きて悦ぶ事かぎりなし、中將をば大臣になさせ給ひけるとぞ、かやうの事も老たる人の見もし、聞もする事に、廣きいさほしなりとしるべし、人若き時は血氣にさかんに元氣つよきゆゑ、保養の術にうとく私慾を恣にすといへども、おほくは妨なきに似たり、四十にも至る比ほひよりつとめて保養せざれば、たちまち病を生じ、元氣をそこなひ、其身を失ふなり、素問にも四十にして陰氣おのづからなかばすとあれば、飲食色慾共に心をつけてつゝしむべし、本邦の俗四十を初の老と定めたる事、誠に故ある事にぞ、

人の壽命に上中下の次第あるは、父母より受得たる所の生質に厚薄あればなり、しかれば人の壽數も大抵は極りある事なるべし、常に養老の術を學んでよくつゝしみおそれて、それ〴〵の天年を盡す事をしるべし、生れつきて元氣さかんに體つよき人も四十已後の保養をしらず、私慾を恣まゝにすれば父母より受得たる所の天年をたもたずして死する類多し、爰に炭あり上中下の性をそなふ、いたつて能炭はその性剛堅なり、惡炭はその性柔軟なり、中間の炭は剛柔相まじはる、此上中下の炭の形の大小ひとしきを以て同じく火の中に投じ燒く時は、共にその色赤く熾熄となりては、卽時に上中下をわかちがたしといへども火を出てすこしほどふるにしたがひて、おのづから上中下の相をあらはし、後には灰となりて消盡るなり、其時に至りて好炭は灰となる事

おそく悪炭は灰となる事すみやかに、それ〴〵の炭の性をつくす、是人の性質に剛柔虚實の分ありて上中下の壽數を盡すにひとしからずや、又此炭の火をあらはに外に出しておくときは消る事すみやかなり、爐中に納め暖なる灰をかけて養ひたくはふれば半日ほどに消ゆる炭火も一日一夜ほどはながらへたもつなり、是人の保養して上壽をたもつにことならずや、又此炭火をあらはに出し置その上を火箸をもてなやすいらひなどすれば何ほどの堅き炭もたちまちやせ或は炭のかたちは有ながら黒くなりて火も消ゆるに至るなり、是保養の術をしらず私慾を恣まにして、元氣をそこなひ、身を失ふにおなじからずや、又柔軟なる炭火も爐中に納め暖かなる灰を掩ひ蓄ふるときは、堅剛の炭火をあらはに出し置たるよりも消ゆる事おそく、是人の生れつき虚弱なる人もよく保養すれば剛强の人のつゝしまざるにまさるにあらずや、此理をよくさとし得て、つゝしみおそれて己にかち天命をたもつ事をしるべきなり。

人の生れつき上中下の天年あれば、その保養にもそれ〴〵のよきほどある事なり、弱き生れつきの人、つよき人のごとく身持をすれば夭折する事勿論なり、生れつきつよき人といへ共、己が分量に過て慾をなせばかへつて早く死する事なり、世間を見るに生れつき體も氣も弱く、中々中年までも生る事はあるまじとおもふ人も六十、七十までもながらふるあり、氣も體も健なる人の百歳をもたもたんとおもふに、かへつて初老の時より病多く中年迄も壽命をたもつ事なき人あり、是皆保養をつとむるとおこたるとのたがひあればなり、老子の御言葉に人の命は我にあり、天にあらずとのたまふ、實さる事ぞかし命の長からんも短からんも皆わが身持にある事なれば、能々保養をなして天年をたもつべきなり。

養老新書といふに、安樂の道はたゞ保養をよくする者これを得とあれば、老て安くたのしまんとおもはゞ、たゞ初老の時より常に心にかけて保養をよくすべし、保養とは元氣血を惜みてそこなひやぶらざ

る事なり、第一老ては氣をやしなふ事をしるべし、孟子も我よく浩然の氣をやしなふとのたまひ、又心を養ふは慾を寡ふするよりよきはなしとあれば、私慾をさりて元氣を養ふべし、慾をさらずしてなんぞ氣を養ふの術あらんや、愚なる人はたゞ氣を養ひ氣を惜むなどいひて隱居して世間にまじはらず、勤むべき事を打捨て、いとまあるまゝに飲食にはおのがすき好むものを調味して厚味に耽り醇酒に醉てあくまで婬火をたすくるによりて、若き時よりはかへつて慾ふかくなりて、世間しらずの放逸者になり、子をせめ財をむさぼり、子にも不孝の名をおはせ晩節の操をたもつ事なく、心をみだし、一生をあやまつ者おほし、小人閑居して不善をなすと戒め給ふ聖人の御言葉おそるべき事なり。

(以下次號)

食物鑑別法

文部省開催　家事科學展覽會

牛肉の良否

一、色彩

良……鮮明なる赤褐色なり。

否……(幼牛)は淡紅色にして水分に富み柔軟なり。

(老牛)は濃褐色を有す。

(斃死牛)は紫色を呈し血液多量なり。

(病牛)は不凝柔軟にして出血不充分なり。

二、組織

良……筋纖維緻密にして適當に脂肪を交へ彈力性に富む。

否……筋纖維粗大にして強靭なり。

(老牛肉)は脂肪少量なり。

三、脂肪

良……白色にして硬く且つ適當に交雜す。

霜降狀をなし纖維中にあり。

否……(老牛)は多く黃色を呈す。

四、新古

良……固有の快香あり。

切斷するとき小刀に對し抵抗均一なり。

否……腐敗肉は固有の快香なく暗褐色を呈し光澤なくして惡臭を放つ。
之を煮れば盛に泡を生ず。

欺　肉

これは通例馬肉を混ず。

肉……色彩は暗赤色なり。
柔軟脂肪を夾雜せず。

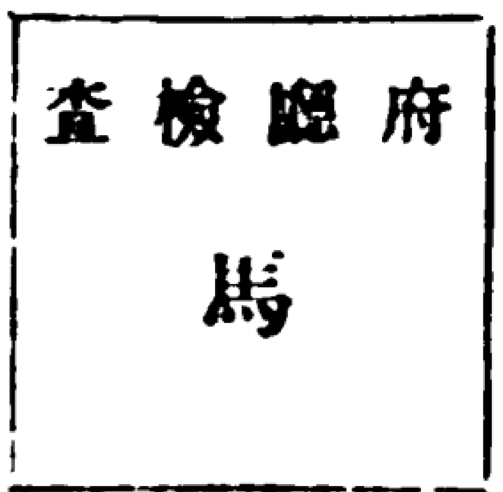
脂肪……色彩黄褐色にして牛肉よりも少量なり。
強く壁に投げつくるに容易に附着す牛肉は然らず。
少量を煮沸するに馬尿臭に似たる不快の臭を發す。
凝固性は牛肉に比して乏し。
煮沸すれば著しく泡沫を生ず。

枝　肉

肋骨……牛は厚くして廣く十三對あり。
馬は薄くして狹く十八對あり。

屠肉檢査……牛馬及び豚の屠肉には規定（明治三十九年六月内務省令十五號）に基き檢印さるゝにより識別す。

檢印雛形







罐詰肉の良否

一、外觀檢査

良……罐の蓋及び底膨脹せず殊に脫氣式のものは蓋及び底に多少凹みをもつ、この式は蓋に一個の脫氣孔あり殺菌の液汁漏出せしものは二個を有す。

否……罐の蓋及び底膨脹す指頭にて強壓するに再び水平にかへらず罐を強く振りて液汁發生せる音を發するもの密閉部より液の漏出するもの二個以上の孔あるもの。

二、打診檢査

良……木製の棒にて打つに堅實なる音を發す。

否……空虚なる音を發す。
尤も脫氣式含氣式液汁多少罐の大小内容品の内面に接觸せるや否やに差あり熟練を要す。

三、開罐檢査

良……内容品爽快なる香を有す肉は組織原形を保持す。
脂肪は白色若くは淡黄色罐の内壁に變化なきもの。

否……中より瓦斯を發す肉の液化又は組織柔軟、液汁溷濁し本來の色を失へるもの、罐詰固有の臭あり酸澁味を覺ゆるもの。

魚類の新古

一、眼

新……眼球突出し眼瞼緊張す角膜透明なり。

古…眼球陷沒して周邊赤色となる。
眼球の破壊脱離角膜の溷濁等をなす。

二、鱗

新…光澤を有し體に固著す而して粘液を被らず。
古…光澤を失ひ剝脱し易く粘性を帶ぶ。
粘性を被り著しく弛緩し惡臭を放つ。

三、彈力

新…指頭にて壓するに硬く彈力ありて指痕を留めず。
古…軟化し彈力なく指壓を去るも痕を留む。

四、鰓

新…鮮紅色にして鰓蓋及び口は堅く閉づ
古…灰色、淡黄、灰赤色にして鰓蓋を開き又は容易に開き得。惡臭を放つ。

五、肉

新…肉硬くして彈力あり而して骨に密著す。
手掌に上せ水平に保つに屈曲せず。
古…肉柔軟にして彈力なく肉は容易に剝離し得、肉屈曲し易く灰白色を呈し腹部は膨大し惡臭を發す。

六、比重

時を經るに從ひて水面に浮止するものなり。

乾魚

色彩…鮮魚より製せるものは光澤あり。
古き魚より製せるものは光澤を有せず。

乾燥…内外共に不同なく適當に乾燥せるを要す。
食味…美味にして異味酸味等なきを要す。
雜物…細魚の乾製中には砂土等雜物の混入なきを要す。

鷄卵

一、目方の重きほどよろし。
二、新鮮なるものは卵のにほひなし。
三、卵殻の厚きものほどよろし。
四、一〇%の食鹽水中に入れ沈むものを良とす。
但浮く程度により生後の日數を知る事を得ず、何となれば卵殻に輕重の差あればなり。
五、透し見て半透明に卵白を見るを得る物を良とす。
六、兩端を舌又は脣にふるゝに鈍端温かく尖端冷かなるは新鮮なる徴とす。
七、卵殻は鳥糞に汚染せられざるを要す斯くの如きものは腐敗し易ければなり、然れども故意に洗滌したる形跡を有するものは絶對に排斥すべし、何となれば水洗のために外部の防腐組織除去せられ腐敗を誘致するの恐あり。

牛乳

一、色純白にして不透明なることを要す。
二、風味は固有の風味を有することを要す。
三、濃度は乳の一滴を爪の上に滴下するに球形を保つを可

とす。

四、混合物……「コップ」の底部及周圍に細粉樣の殘溜するは澱粉等の混合せる徴なり。

實驗……沃度丁幾一、二滴を注下す此際沃度丁幾の色のみ上面に浮ぶは良品なれども青黑色に變ずるは澱粉質の混じたる證なり。

五、脂肪の多少……「コップ」の内面に薄く液汁の附着するは脂肪の適度なる證なれども洗滌せるが如くなるは水分多く脂肪少き徴なり。

穀類

精米

一、乾燥充分なること。

A、前歯にて噛み堅實なる音を發して破碎するを良とす。

B、米粒を掌上に載せ之を傾けて盆上に落下するに滑りよくして淸音を發するは可なり。

C、手を溫めたる後米を握り下方に向け開くに粒子の附著多きは乾燥不良の證なり。

D、水車搗の米は水分を吸收し乾燥充分ならざるのみならず糠及び化粧砂の附著多く重量亦輕し。

二、重量は可成多きを可とす。

乾燥充分なる中等米は一斗に付き三貫七百五十匁以上あり。

三、色澤は硝子樣透明にして光澤あるを可とす。

四、縱筋淺く腹白、胴割なきものを可とす。

五、變米、青米、赤米の混入せぬものを可とす。

六、粒形整一にして大小不同なく且つ豐肥なるものを可とす。

七、籾、粃碎米土砂其他の夾雜物なきものを可とす。

八、精白充分にして糠離良きものを可とす。

九、米皮を充分剝ぎとり粒端の凹部稍〻丸くなれるものを可とす。

十、異種劣等なる陸米蘭貢米を混入せざること必要なり。

A、陸米は色澤乳白色にして光澤なく粒は著しく不齊にして粘力少く味美ならず。

B、外國米（蘭貢米を含む）多くは粒子長大にして丸味少なく質硬くして光澤少し往々赤米を混じ粘力乏し。

精麥

一、搗精充分なること。

二、乾燥充分なること。

三、粒子のよく揃ひたるもの。

四、麥皮の附著せぬ又麥皮及び屑麥の混ぜぬものを可とす。

五、重量多きこと。

六、實質よく充實しあること。

挽割麥

精麥に準じて鑑別す只特に挽割麥は次の如し。

一、割合正しく壓しつぶされたるものを混ぜざること。

二、粒子齊一にして三ヶ割乃至四ヶ割位の大さなるを良とす又破碎面は切りたるが如く滑らかなるを可とす。

三、重量は一斗につき大麥は二貫八百匁以上裸麥は三貫匁以上あらざるべからず。

壓搾麥

精麥に準じて檢査し得只特に壓搾麥は次の如し。

一、壓搾の程度の適當なること。

二、一斗の重量は大麥にて二貫七百匁裸麥にて二貫九百匁以上あるを良とす。

小麥粉

一、色澤は純白にして光澤あるを良とす。

硝子板上にひろげ表面を平滑にし清水に浸したる後取り上げて檢するに帶暗黃色を呈し尙糠汚物等を識別するは劣等なり。

二、粉狀微細なるを上等品とす。

精粗を檢するには硝子板上に平にひろげ擴大檢視すべし又指頭にて揉むに天鵞絨に接するが如きは可なるもさら〳〵と感ずるは不良なり。

三、乾燥充分にして臭氣を有せず又蟲害等なきを要す、掌裡に握るに塊狀をなすが如きは乾燥不充分なる證なり。

四、粘り氣を有せざるもの。

五、澱粉に富み糖分と麩質に乏しきものを可とす。

醬油（しやうゆ）

一、色澤

釀造法の異なるに從ひ濃淡の別あり關東向は濃厚にして關西向は淡し。

（試驗）硝子器に醬油を入れ二、三倍の水を加へ日光に透射し紅褐色を呈し一種の光澤あるを良とし黃褐色又は黑褐色を呈し光澤不透明なるを下等品とす。

二、食味

苦味、澁味、酸味なく甘鹹相適應するを可とす。

（試驗）少量の湯を注ぎ之を試味するに香味に富み美味を有するを良とす。

三、香氣

一種爽快にして食慾を促進せしむる如き香氣あるものを可とす。

四、濃度

一種の粘りを有するを可とす。

（試驗）「エキス」分に富む醬油は此れを水中に滴下するに容易に水と交らず漸次下方に沈下し行く肉付薄きものは之に反し水と容易に交はるものなり。

味噌（みそ）

一、色澤

赤味噌は黄、茶褐色、白味噌は白く八丁味噌は暗褐色にして何れも光澤を有するを良品とす。

二、味

鹹味適度にして苦味酸味なく風味佳なるを可とす。

（試驗）同一量の水に溶解し煮沸して汁となし試味す。

三、熟成

熟成完全なるを可とす。

腐敗に近づきたるものは黑色を帶び光澤なく厭ふべき酸味と臭氣とを有す。

砂糖（さたう）

一、色澤

糖蜜の含有量少なきものを良とす。

卽ち純白なる程良品なり。

二、結晶度

結晶小にして指頭にて揉み容易に崩壞するを可とす。

堅塊を混ずるは不良品なり。

三、夾雜物

不純物少なく湯に容易に溶解し殘渣なく透明なるを良品とす。

四、澱粉混入の有無

十倍の水に溶解し沃度丁幾一二滴を滴下するに澱粉混入せるものは濃青色に變ず。

茶（ちゃ）

一、形狀よく整ひ粉末及び褐色の枯葉を混ぜず蒸度適度なるを可とす。

二、乾燥充分にして香氣高きを可とす變味あるもの又は黴の痕跡あるものは不可なり。

三、他物の移り香なきものを可とす。

四、茶汁は色淸く口に入れて吐出し甘味あり稍〻澁きを可とす。

又茶滓を檢し葉の完全なるは良品なれども葉面粗にして厚きは不良品なり。

「バタ」

一、外觀的

良好なる「バタ」の性狀

A、軟硬……柔硬程よきを要す。

B、臭味……特殊の快香、美味を有し必ず敗油性臭氣を有すべからず。

C、色……季節により淡色又は黄色一樣ならず但し何れの場合も其の色は均等なる事を要し且つ白色の線條を有すべからず。

D、截斷面…截斷したる截口皆同質にして水滴又は乳狀の

液を現出すべからず若し是れを現出する時は製法不完全なるか若くは故意に脂肪乳をこねまぜたるものなり。

二、化學的

A、水分脂肪食鹽の分量

1、水……一三%以上含有すべからず。

2、脂肪…必ず八〇%以上含有すべし。

3、食鹽…二%を越ゆべからず。

4、酸……五度以下とす、但し酸度高きも直ちに變敗せるものと見られず。

變敗の檢出法

A、牛脂樣の外觀を呈して黴を帶び油狀にして苦く其の他嘔氣を催すべき臭味を有するもの。

B、酸度を越えたるもの。

C、顯微鏡によりて黴菌の有無を檢出す。

贋造品鑑別

A、食鹽の外鑛物性夾雜物其の他穀粉、馬鈴薯、粥の類を混有せるもの。

B、異種の脂肪を含有せるもの。

雜報



○皇后陛下の御仁慈

皇后陛下には曩に大森皇后宮大夫をして市内の特殊學校竝に各種の慈善救濟團體を視察せしめられたるが其結果舊臘皇后宮職より府知事及び關係團體長を御召あり東園内務部長知事代理として團體長等と共に出頭せるに左記の如く夫々御下賜の御沙汰ありたり。

▲金壹千圓瀧野川學園へ▲金貳百圓雙葉幼稚園へ▲金參百圓東京育成院へ▲金貳百圓宛靈岸島、鮫ヶ橋兩小學校へ

▲金一封宛　鮫ヶ橋小學校長、萬年小學校長、靈岸島小學校長、玉姫小學校長、育成園主、雙葉幼稚園職員一同、濟生會出張診療女醫

▲反物七十六反　日本赤十字社病院入院施療患者へ

▲反物百二十六反　慈惠會病院▲同二百十反濟生會病院▲同九十二反福田會孤兒園孤兒へ

右何れも裏地裁縫料付

○府下に行はるゝ迷信

先般文部省開催の家事科學展覽會に於て、迷信に關

し文科大學を始め神奈川縣立高等女學校、三輪田高等女學校、東京教育博物館等より種々興味ある調査を發表せられたるが、府立第二高等女學校出陳の迷信調によりて東京府下に行はれつゝある迷信の數々を擧ぐれば左の如し。

○經濟に關し

▲千木箱(芝神明で賣るもの)……之を簞笥に仕舞つて置けば着物が出來る。

▲玉蟲……同上。

▲熊手(酉の市で賣るもの)店に飾るとお金が出來る。

▲馬の轡……戸口に下げると人の出入りが多くなる。

▲紫陽花……赤い絲で土用の丑十日に玄關や便所に下げると金廻りがよい。

▲千羽鶴……淡島樣に上げるとお針が上手になる。

○疾病に關し

▲大蒜……門口に下げて「コレラ」除け。

▲木彫の馬(三春駒の小さきもの)……守袋に入れると丈夫になる。

▲括り猿(五疋)……脊守にすると丈夫になる。

▲鎮西八郎爲朝御宿……と赤い短册に書いて門に張ると疱瘡除け。

▲雪の下……の搾つたのは子供の夏ぼしに效能がある。

▲節分の煎豆……自分の年の數に一つ加へて、穴錢を交せて紙包にし、身體を摩り、辻に捨てれば病氣にならぬ。この煎豆を初雷の時食べると流行病に罹らぬ。

▲菖蒲の簪、朝鮮の鶴の簪……これを插せば頭痛がしない。

▲水蠟樹の箸……之を用ゐると肺病に罹らぬ。

▲しやもじにお灸……咳の呪禁。

○育兒に關し

▲鬼の念佛繪……小兒の夜泣止め、又は疫病除け。

▲白南天の杵……腰に下げると百日咳が止む。この頃の世界的感冒の爲めには、桑の木の杵を下げるの

とが流行してゐます。

▲笊をかぶせた犬張子……子供の病室に置くと鼻が塞まらぬ。

▲麻の葉模様の著物……これを著せると子供が眞直に育つ。

○雜の部

▲目無し達磨(大師樣で賣る)……これを買つて何事もなかつたら、達磨に眼を入れて川に流す。

▲鮑貝……鷄小屋に吊るすと鼬が來ない

▲優曇華……これが生えれば惡いことがある。

▲小さな瓢箪……腰に下げると轉ろばない。

▲テル〳〵坊主……南天の木に吊して晴天を祈り、お天氣になると、お酒を呑ませて川に流す。

▲燃えさしの薪……神棚に上げて晴天を祈る。

○東京顯微鏡院の事業

同院は檢定部は診斷に必要なる諸檢査の需に應じて實地醫家は多忙を輔翼すべき文明的機關なることは夙に世の知る所たるが同院は這般之に關する規定に大改正を加へ結核菌の檢索には必ず「アンチフォルミン」集合法を用ゐ黴毒の檢索には簡約に改變したる諸法に據らずして毎にワッセルマン氏の原法に從ひ室扶私ウイダール氏反應は本菌「パラチフス」菌A型B型の三菌に付き必ず同時に試驗して完全なる診斷に資することゝし其他乳汁尿、屎、飲料水、鑛泉、消毒等の生物學的竝に化學的各種の試驗共改善を加へて總て最も斬新にして最も確實なる方法に據りて檢査依賴者の理想に副ふべく勉めつゝ在り隨て市内に於ける實地家にして診斷檢査依賴を目的とせる團體即ち鏡友會の利益漸次普及するのみならず近今は遠隔地方よりの依賴著しく增加し一般に診斷檢査の進步觀るべきものありといふ。

會報

○本會一月例會

本會は婦人修養俱樂部と合同して本月十一日午後一時より神田區一ツ橋通り女子職業學校大講堂に於て

本年第一の例會を開き全權公使内田定槌氏は「歐洲戰爭に對する所感」と題し、今回の大戰爭の發端より今日に至る迄の經過を簡明に而かも極めて興味深く敍述せられ、それより餘興として細川風谷の講談あり、一同に茶菓を饗し午後四時半散會したるが、出席者三百餘名にて盛會を極めたり。當日出席の本會役員姓名を記すれば左の如くなりき。

濱尾作子　鳩山春子　長谷川仲子
岡田德子　入澤常子　吉岡彌生
田村きよ子　中濱芳子　松井正子
天野多喜子　宮本樂子　守屋千代子

以上いろは順

寄附

一蜜柑二箱　濱尾副會長

○武田夫人の逝去

年來本會の爲めに盡瘁せられたる評議員武田貢子刀自は本月十一日逝去せられたり本會は玆に謹で哀悼の意を表す。

私立大日本婦人衛生會

○入會者

○山口貞子氏、守屋千代子氏紹介

牛込區市ヶ谷加賀町二ノ十八　特別會員　松井喜伊子

○資格變更

通常より特別會員に

神田區駿河臺西紅梅町十六　瀬川すゞ子

同上

四谷區内藤新宿北裏五三　瀬川さわ

同上

小石川區諏訪町三十六　藤澤すま子

○轉居

府下より前橋市向町七二へ　青木壽々子
牛込區より横濱市根岸芝生臺二一一六へ　久保田不二子
府下より府下中野町字中野一〇二三へ　松浦つる子
弘前より京都市烏丸通蛸藥師角へ　市川りう子
小石川區より本鄕區曙町十六ノ二ノ二十六號へ　石津敏子
四谷區より同區荒木町二十三へ　後藤わか子
本鄕區より小石川區關口臺町へ　癸光子
神田區より牛込區紀久井町七五へ　松田まさ子
麻布區より府下穩田五〇へ　武富須美子
廣島市より同區國泰寺町百二十九へ　仙田花子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事	鳩山春子	同	長谷川仲子
同	岡田德子	同	高木鐐子
同	山本多穗子	同	三浦敎子
同	松平芳子		
評議員	入澤常子	同	羽田三緒子
同	濱田捨子	同	服部繁子
同	原みつ子	同	仁禮壽賀子
同	西舛子	同	土肥多越子
同	緒方悅子	同	岡山とし子
同	小川孝子	同	男爵母堂　加藤鈴子
同	片山龜子	同	吉岡彌生子
同	丹波貞子	同	高橋孝子
同	田村きよ子	同	武田貫子
同	鶴原誠子	同	男爵夫人　南部殿子
同	中濱芳子	同	山口貞子
同	子爵母堂　松井正子	同	古市幸子
同	小松いさ子	同	近藤憲子
同	天野多喜子	同	岸澄子
同	菊池峯子	同	三宅藤子
同	宮本樂子	同	守屋千代子

大正八年一月十七日印刷

大正八年一月二十日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　編輯者兼發行者　莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地　印刷者　櫻井新三郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地　印刷所　合資會社　杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地

發行所　私立大日本婦人衛生會事務所

（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所

東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂

同市銀座四丁目　東海堂

同市京橋區鎗屋町　貢明堂

同市本郷區本富士町　明文館

同市同區春木町　南江堂支店

京都市寺町二條南入　若林茂一郎

東京日本橋區吳服町　北隆館

同市神田區表神保町　東京堂

同市本郷區本富士町　盛春堂

名古屋市榮町六丁目　丸善書店

婦人衛生雜誌第三百四十五號　大正八年一月二十日發行

